

秦野斎場施設整備基本設計



平成27年 6月

発注者 秦野市伊勢原市環境衛生組合
受託者（設計事業者） 株式会社類設計室

目次

敷地概要・建築概要・案内図	1
平面計画図	2
建築計画概要書	3
デザインコンセプト	4
外観パース①	5
外観パース②	6
アプローチ・エントランスホール 内観パース	7
告別室・収骨室 内観パース	8
待合室 内観パース	9
ロビー 内観パース	10
廊下・2階中央ロビー 内観パース	11
立面図	12
諸元表1	13
諸元表2	14
構造計画概要書	15
基礎計画方針	16
環境設備計画 設備概要書	17
改築計画	18
法規概要書	19
消防設備チェックリスト	20
全体スケジュール表	21
基本設計概算書	22

敷地概要

- 所在地 : 神奈川県秦野市曾屋1006番地
- 敷地面積 : 5931.12㎡ = 既存敷地(都市計画決定区域)5427.30㎡ + 南側新規購入地503.82㎡
- 用途地域 : 既存敷地 工業地域 建ぺい率60% 容積率200%
 新規購入地 工業専用地域 建ぺい率60% 容積率200%
- その他 : 敷地内に、葛葉川河川区域 河川保全区域 砂防区域あり
 葛葉川対岸が第一種低層住居専用地域で、日影規制2h/3h/1.5m

建築概要

- 物件名 : 秦野斎場施設整備設計業務委託
- 主要用途 : 火葬場 集会場
- 階数構造 : 地上2階地下無し 建築物の高さ14m RC造 一部S造
- 建築面積 : 約2500㎡ < 許容 3256.38㎡ = 都市計画決定区域5427.30㎡ × 指定建ぺい率60%
- 延床面積 : 約3500㎡ < 許容 10854.60㎡ = 都市計画決定区域5427.30㎡ × 指定容積率200%
- その他 : 敷地周辺の擁壁整備を予定

面積表	R階	30㎡	屋内部分のみ	R階	15㎡
	2階	1185㎡		2階	1160㎡
	1階	2265㎡		1階	1865㎡
	法床	3480㎡		合計	3040㎡

緑地面積 : 910㎡ > 基準890㎡ ≒ 敷地面積5931.12㎡ × 15% (まちづくり条例基準値)

内訳

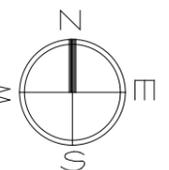
- 既存庭園 150㎡ ← 測量図CAD算定
- 敷地外周 60㎡ ≒ 東側長さ90m × 生垣(シラカシ)幅70cm
- 高木植樹 400㎡ ≒ 高木34本 × 12㎡/本
- 既存屋上 300㎡ ≒ 屋上440㎡ × 範囲70% < 敷地の基準緑化面積 × 50%

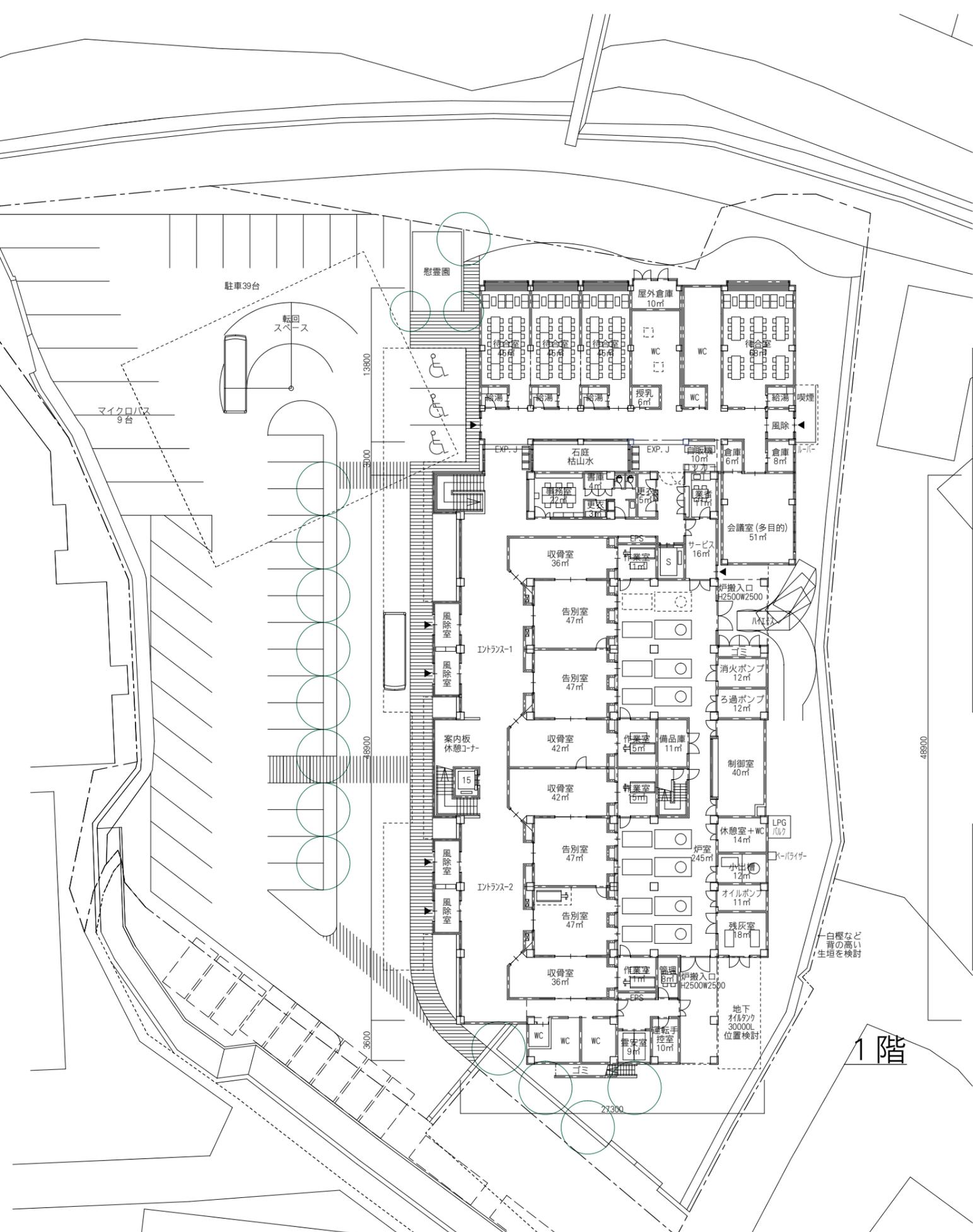
※駐車場車室の芝ブロック、約280㎡を緑地面積として算入し
 緑地率は20% (基本計画目標値) を超える

広域図



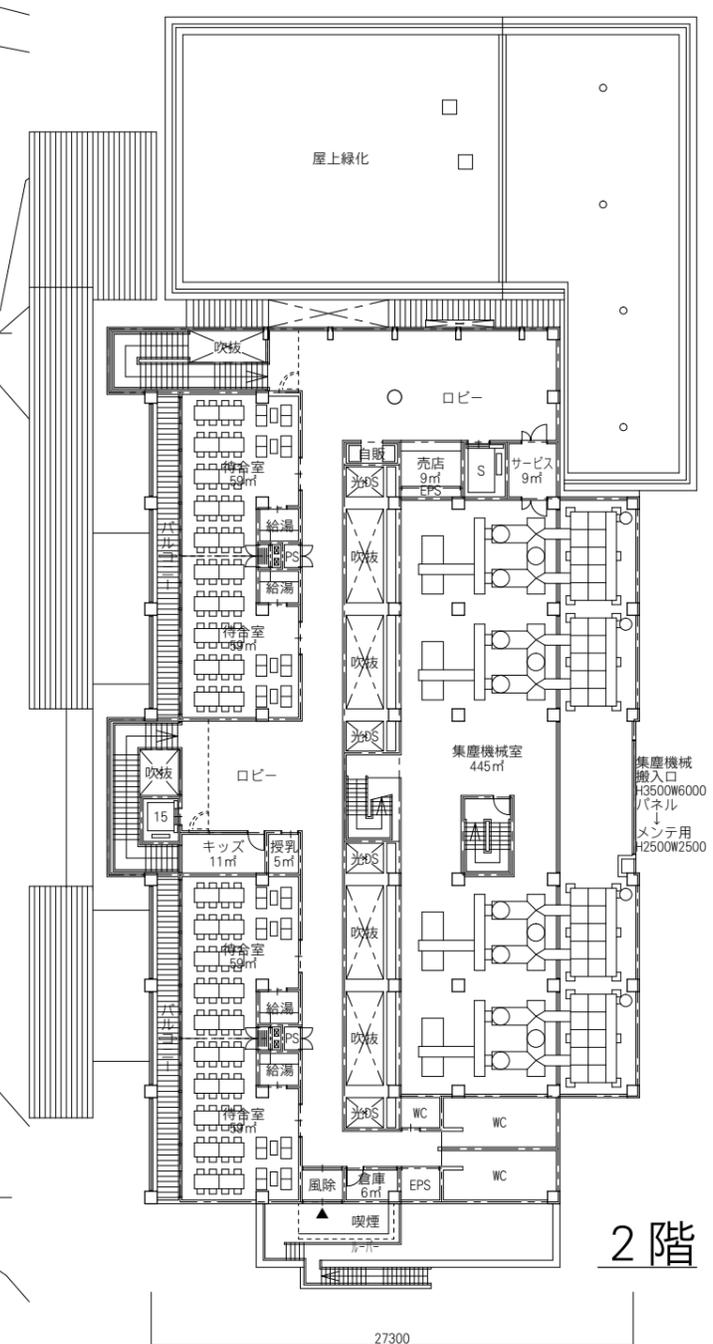
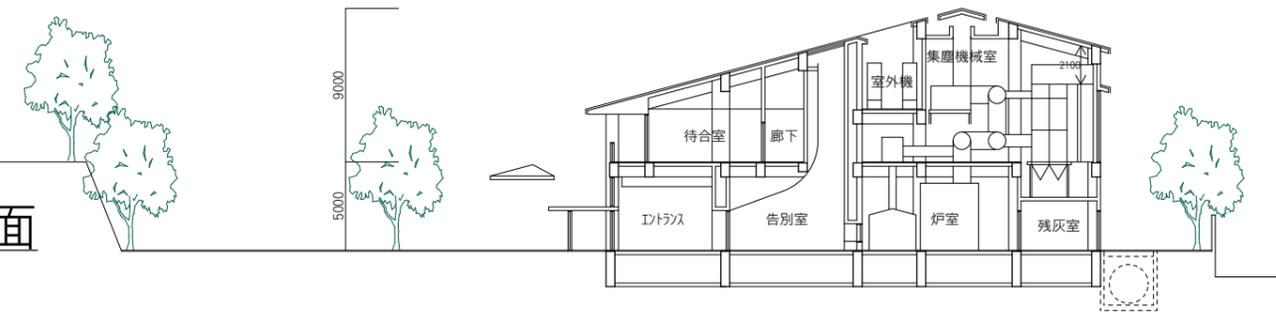
案内図



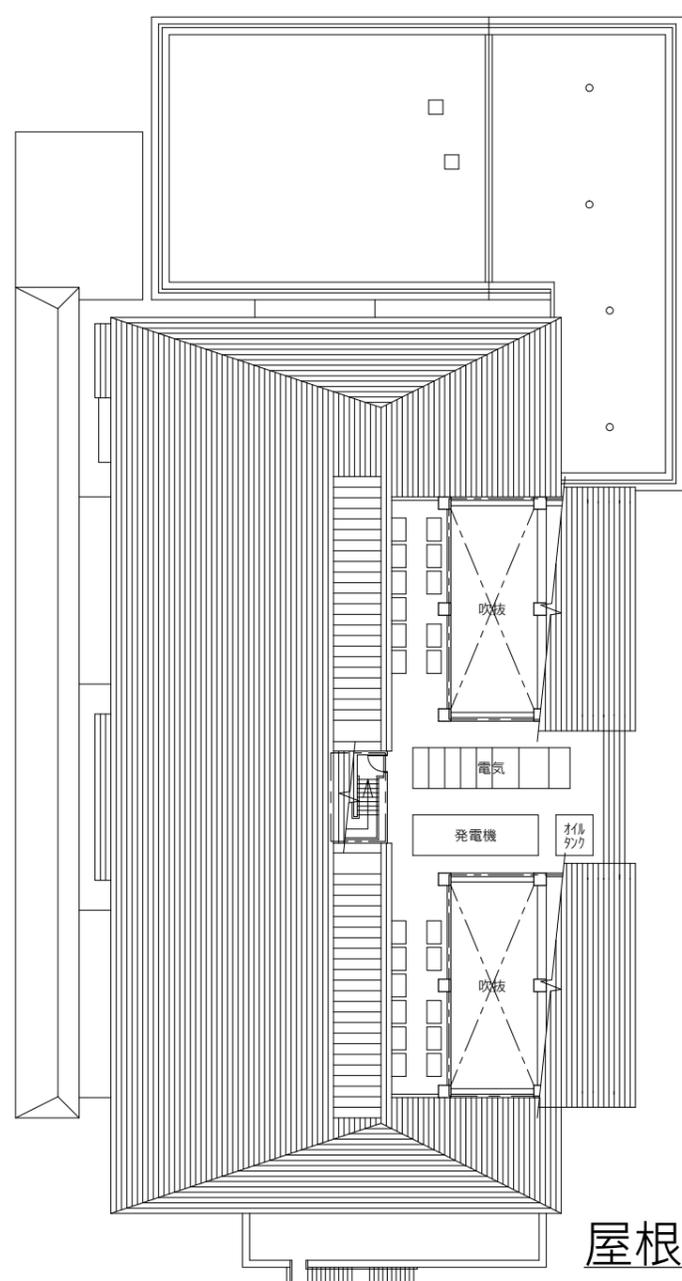


1階

断面



2階



屋根

R階	15㎡	30㎡
2階	1145㎡	1170㎡
1階	1880㎡	2280㎡
合計	3040㎡	法床3480㎡

地域共同体の再生に向け、本源社会構築の礎となる、大地・風土と一体となった悠久の命を伝える施設

日本人は自然と祖霊への感謝を活力に生きてきた。綿々と紡がれた「いのちの循環」。その先に今の我々も存在している。

地域共同体は人や歴史(時間)をつなぐ母体。その再生と共に、地域の相互扶助を醸成し、地域の力を未来へつなぐ斎場としたい。

斎場の社会的な役割

「いのち」と向き合い、地域が集う希少な場
日本人に息づく死生観に寄り添う場
火葬数増加に伴う将来対応への期待
災害時の利用施設としての安全性と耐久性

計画方針

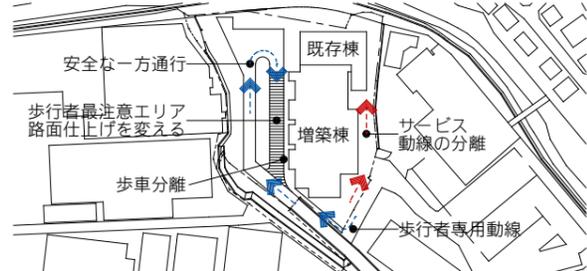
誰もが参加しやすい包容力を持った斎場 …会葬者をはじめ地域の方々が参加し、地域の相互扶助を醸成する仕掛け、空間計画
葬送の場を支援する、機能性の高い斎場 …プライバシー保護など、会葬者の心情に寄り添う計画 シンプルな間取り・動線で利用しやすい計画
自然豊かな地域景観と調和する緑の斎場 …地域の自然の中で過ごされた故人を偲ぶ終焉の場として、山々の景観と緑、光に包まれた計画
変化する社会状況に適応・存続する斎場 …多人数や複数組の葬送など幅広い利用にも対応できる計画 将来の改築も見通した計画

秦野・伊勢原の地域特性・立地特性

組内(地域共同体)で執り行われてきた葬送の儀
敷地状況(限られた面積、崖地等)への対応
丹沢大山に育まれた自然豊かな地域景観
隣接する周辺地域(住宅・工場)との共存

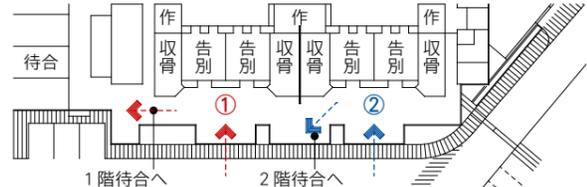
機能性とプライバシー保護に配慮した計画

プライバシー保護と安全性の高い敷地内動線
会葬者とサービスの動線を直ちに分け、会葬者の心情とプライバシーに配慮。敷地内は歩車分離。県道方面からの歩行者動線確保。駐車場は一方通行とし安全性の高い動線とする



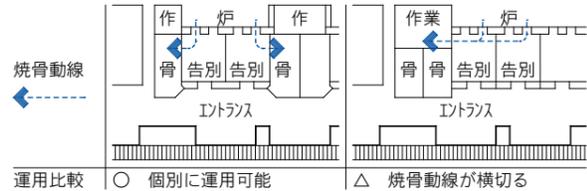
斎場の2ゾーン化

複数組の会葬者動線の交錯や混雑緩和のため、斎場を2ゾーン化。待合室への動線もゾーン毎に分ける。



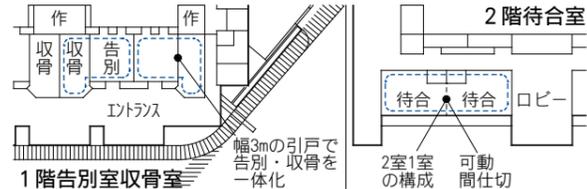
告別室・収骨室隣接型

葬儀運営の個性とプライバシー保護を高める。分離型と比べ焼骨動線による運営上の制約や作業負担を減らす。

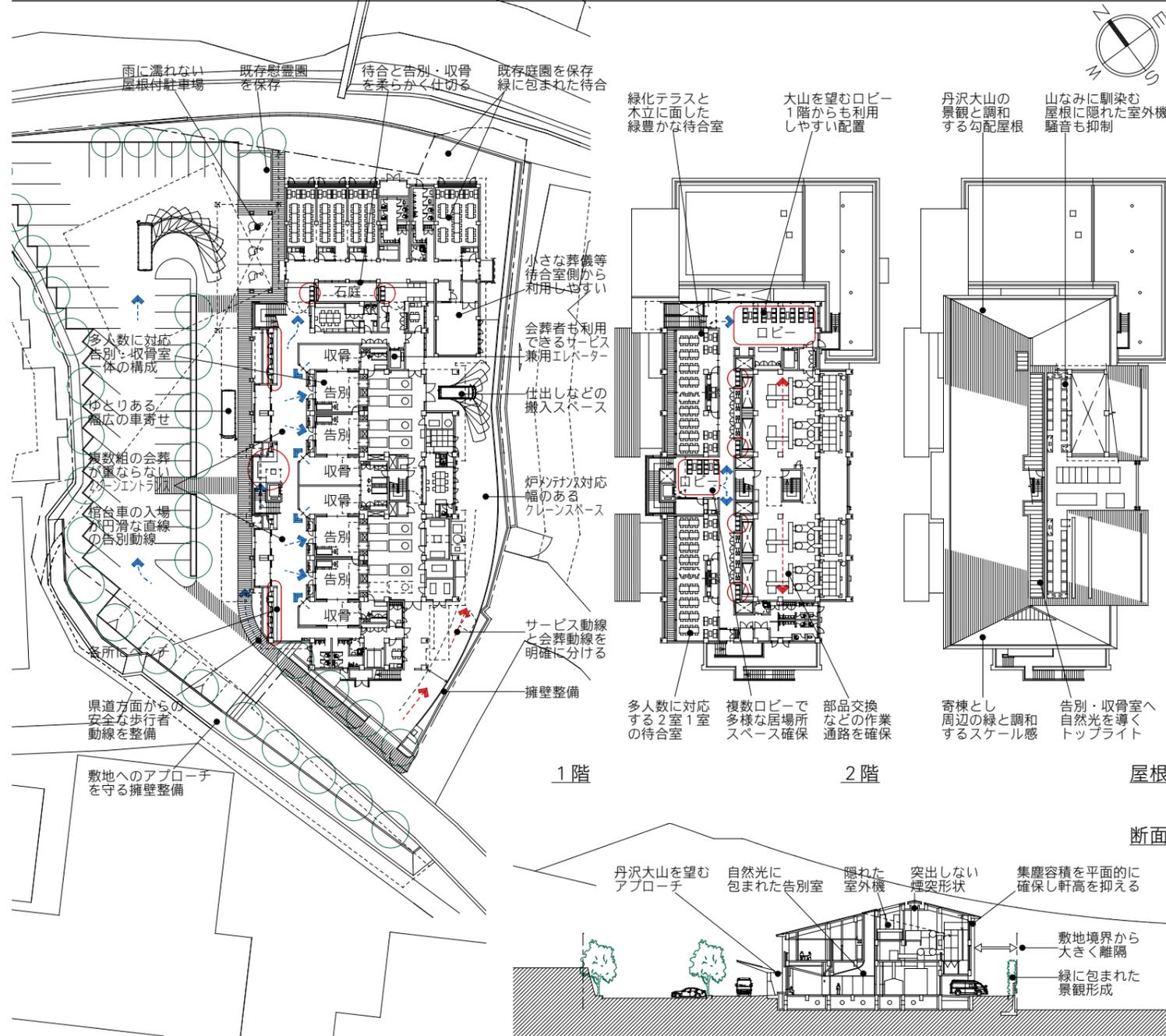


会葬者数の変化への対応

組内に参加する多人数の葬儀や、少人数の家族葬など会葬者数の変化に対応する可変性を確保する。



送る側の心情に寄り添った葬送の場を創出



地域が参加する空間構成

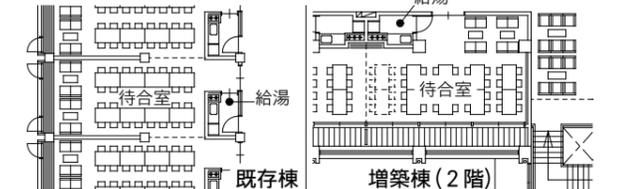
地域の歴史や文化が感じられる共用空間

エントランスやロビー、廊下のコーナー(左図赤丸)など、会葬者の心情に寄り添う多様な居場所をつくる。各所は地域産業による素材や、特産品を活用した設えとし、地域文化を伝え、地域と共にある施設空間づくりを目指す。



親族、地域の一体感を創出する待合室

既存待合棟、増築棟ともに、待合室は会葬者自らが給仕できる給湯室付帯型の待合室とする。



災害時の利用施設として安全性を確保

集中豪雨対策として1階床レベルは地盤レベルより50cm高くする。浸水対策として受変電、発電機は全て屋上配置とする

敷地南西側は斜面崩落により道路が遮断されないように敷地拡大と合わせ擁壁整備を行う。南東側についてもサービス動線の保護と、道路安全性の確保のため、擁壁整備を行う。

構造耐震性、既存棟の構造補強については構造概要書を参照

維持管理・修繕に配慮した施設づくり

炉室周りはフィルター交換などの日常点検や将来の機器更新を行いやすいスペースを確保する。

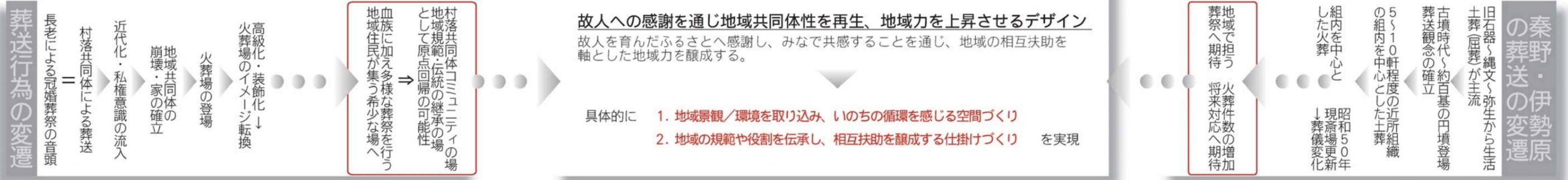


■ 基本コンセプト

『地域共同体の再生⇒本源社会構築への礎となる。大地・風土と一体となった悠久の命を持つ施設』

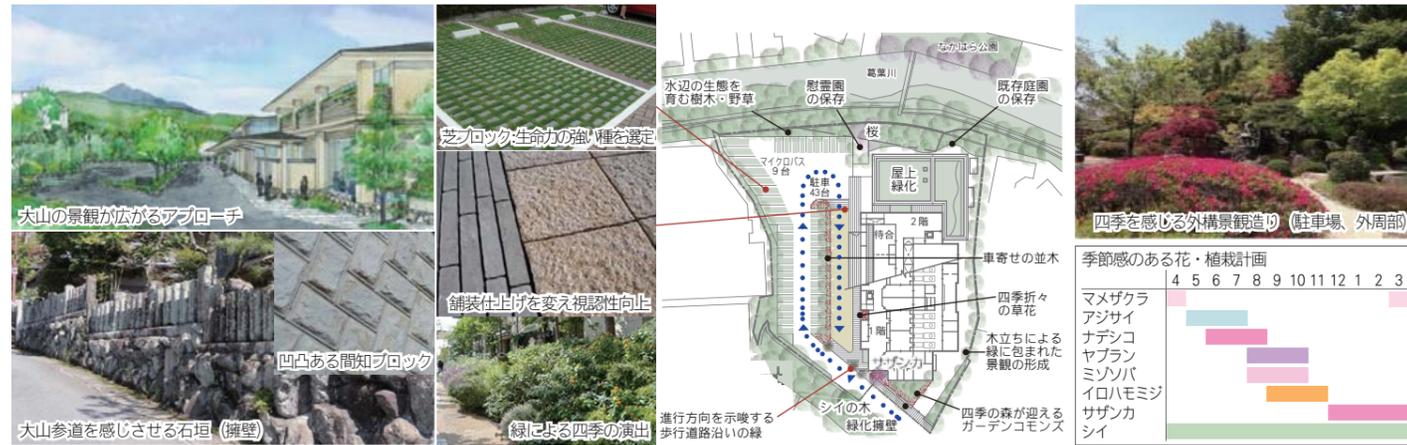
■ デザインコンセプト

● マスターコンセプト

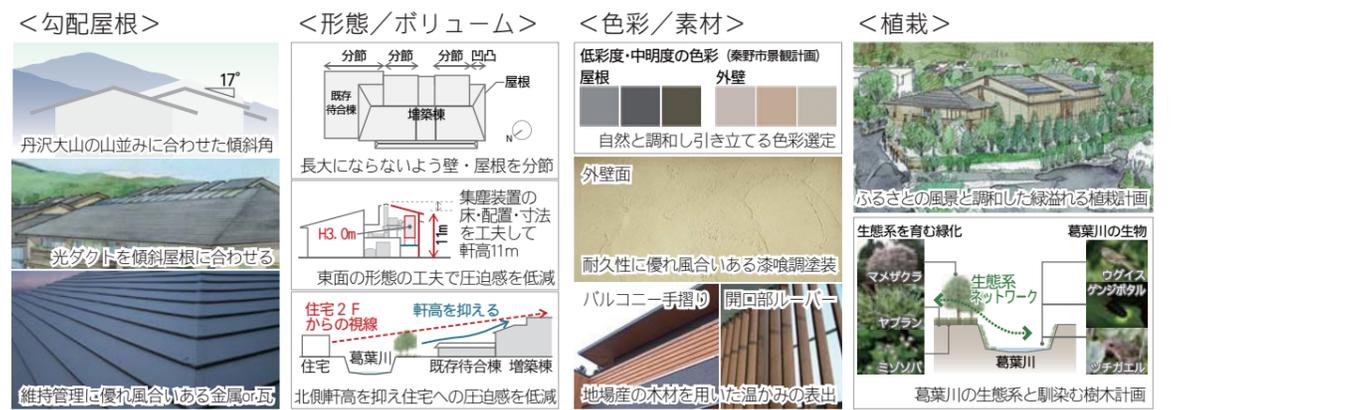


● 外観コンセプト

1. アプローチ/外構…「記憶に残るふるさとの景色」がテーマ。故人が亡くなった季節を記憶に留める緑化計画とする。斎場へは葬送儀式へ心の準備ができるよう徐々に変化し、家路は葬送空間から徐々に心を落ち着かせていく景色造りとする。



2. 景観…「ふるさとの風景との調和」がテーマ。丹沢大山、葛葉川といったふるさとの風景に溶け込み、風景と一体となるよう考慮。



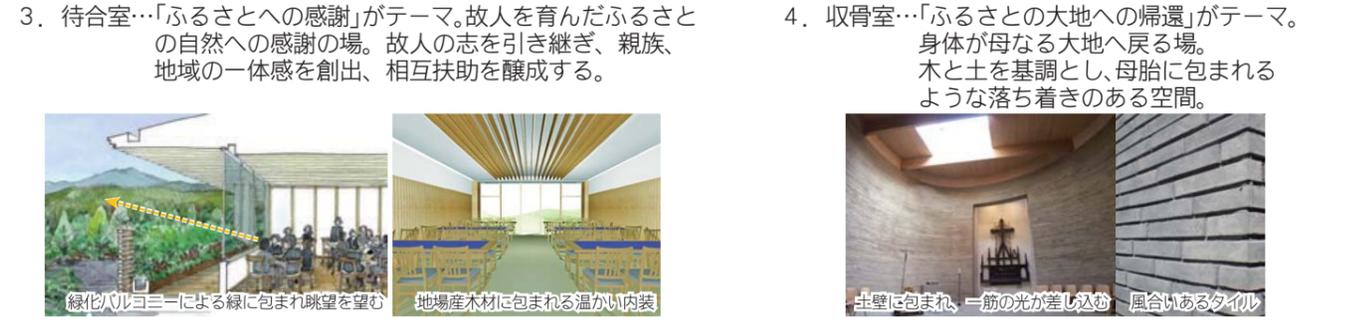
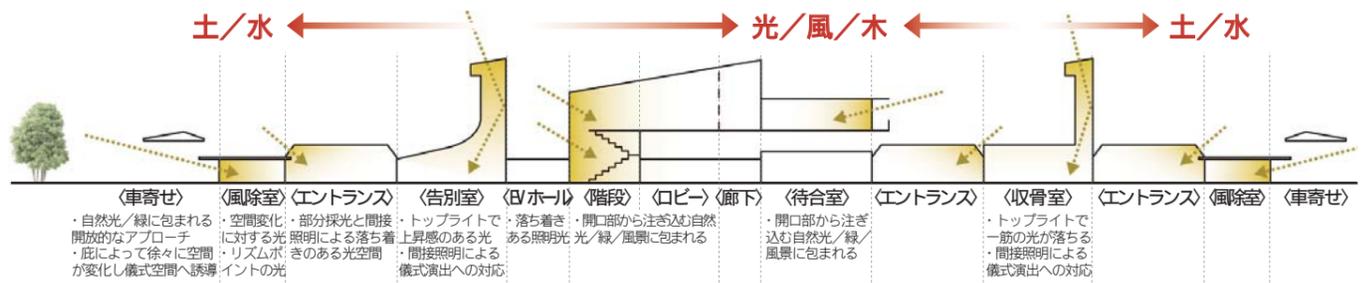
< ファサード > 葬送は循環の一部であり、生活の一部である。日常空間の中で、葬送という行為自体を心に刻めるよう、ファサードは地域と調和させ、建物が主張し過ぎないよう配慮し、葬送行為が象徴される設えとする。



3. 慰霊園/既存庭園/既存樹の保存…「過去への同化と継承」がテーマ。

● 内観コンセプト

< 内部の空間構成 > ふるさとの自然の循環(水・土が植物を育み、再び土・水に還る様)を建物全体で表現。



※ユニバーサル計画…コンパクト、シンプル、わかりやすいプランに加えサインで補足。サインはデザインに調和しながら視認性の高い計画とする。子供から高齢者まで誰しにも使いやすい仕様設定とする。

※家具…各室各ゾーンのデザイン意図に則り、葬送空間を洗練させる。家具が主張し過ぎないよう配慮。

山並みと呼応する大屋根をもつ、ふるさとの民家

大屋根によって地域の一体感を表現。
屋根端部は寄棟とすることで周辺への圧迫感を低減。
アースカラーを基調色とすることで自然と調和した、落ち着いた外観とする。





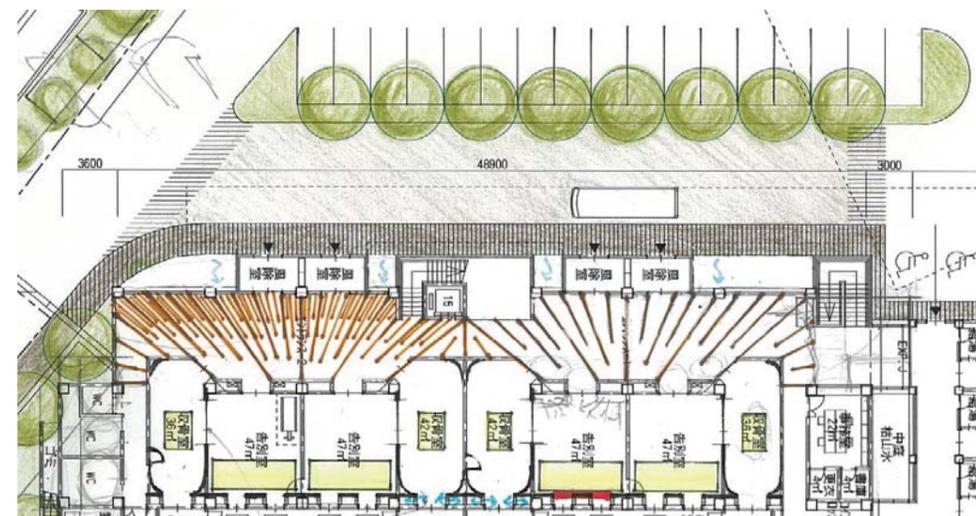
■ アプローチ

葬送空間へ徐々に心情を高めていく親族・会葬者の気持ちの変化に合わせ、アプローチ⇒キャノピー⇒エントランスと木、土、水の要素が増えていく空間構成とする。キャノピーは、木に包まれるような形態とし、できるだけ開放的に作ることで、外自然と内部空間との境界を徐々につなくデザインとなるよう配慮。



■ エントランスホール

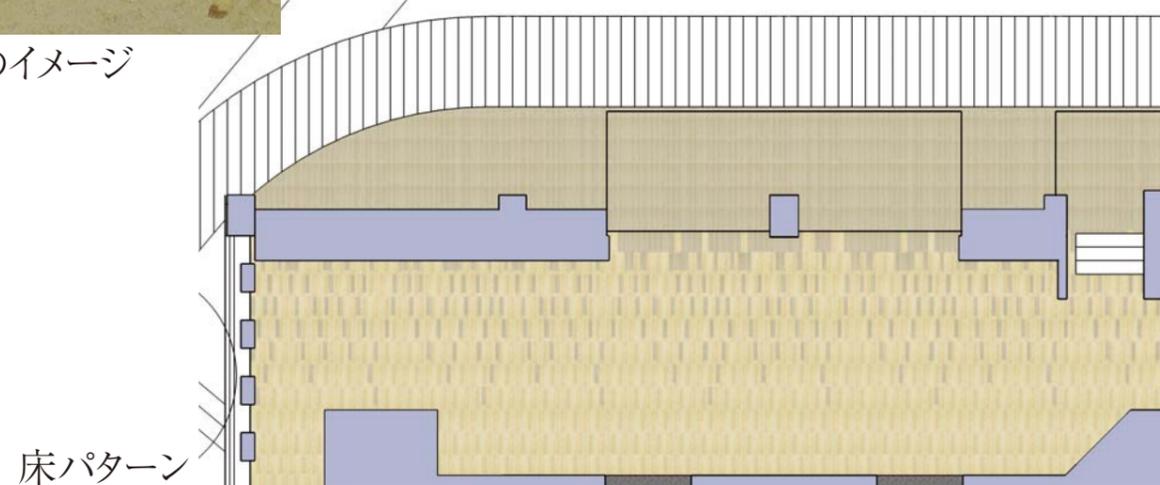
エントランスホールは、「ふるさとに包まれて送り出す」がテーマ。上部は木調ルーバーによって木の枝に包まれるような空間とし、隣接する工場を見せず外の緑が引き立つようなデザインとする。また、壁面には土壁を用い、床は水の流れを模したデザインとし、ふるさとを表現する。



天井木調ルーバーのイメージ



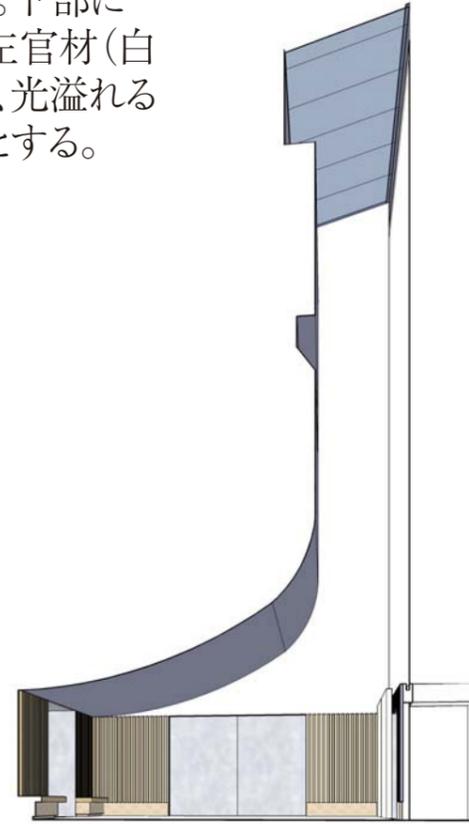
土壁のイメージ



床パターン

■ 告別室

告別室は「ふるさとの大空への帰還」がテーマ。下部に木ルーバー（地場産材を検討）を使い、上部に左官材（白）を用いることで、ふるさとの自然に囲まれながら、光溢れる大空へ魂が登っていく様子が感じられるデザインとする。



告别室



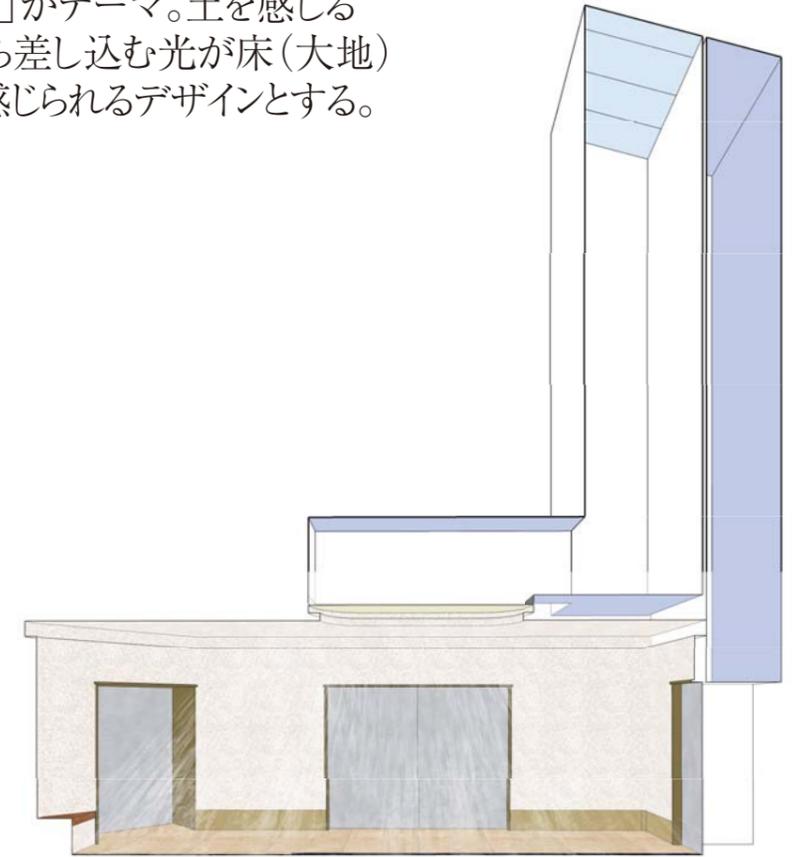
■ 収骨室

収骨室は「ふるさとの大地への帰還」がテーマ。土を感じる左官材に包まれる空間とし、天井から差し込む光が床（大地）に降り注ぎ、肉体が大地に還る様子が感じられるデザインとする。

光が降り注ぐイメージ

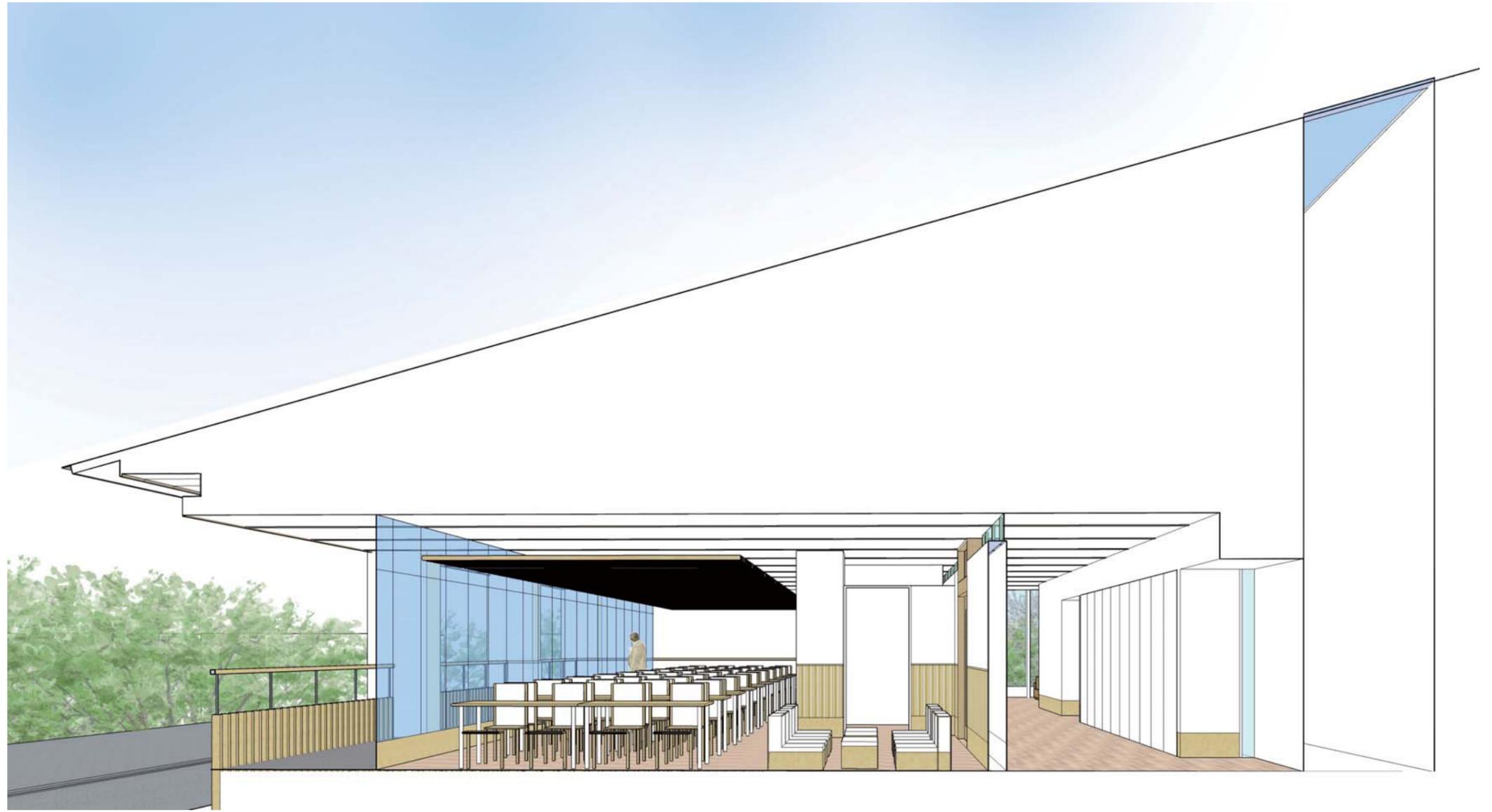


収骨室



■ 待合室

待合室は「ふるさとへの感謝」がテーマ。故人、及び、故人を育んだふるさとへの感謝を共有する場とするため、バルコニーの手摺と腰壁部に木調の素材を用い、木に囲まれた一体感のあるデザインとする。



1階 待合室



2階 待合室



■ ロビー

ロビーを始めとする“空間の抜け”は「ふるさととの融合」がテーマ。開口部周りにはできるだけシンプルに作り、丹沢大山や周囲の緑を絵画のように切り取り、建物内に取り込むデザインとする。



廊下からロビーを見る



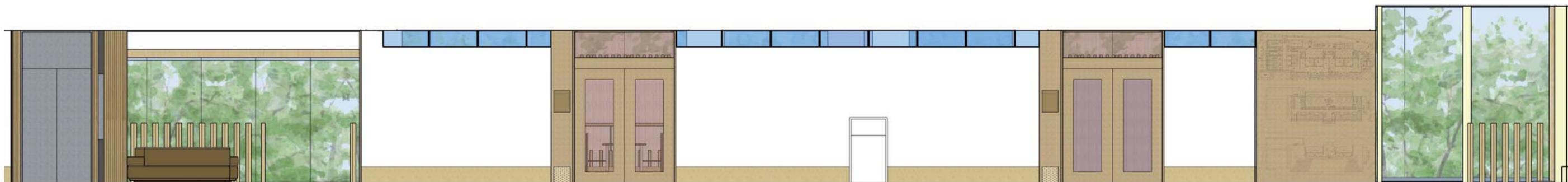
階段からロビーを見る



EVから階段を見る

■ 廊下・2階中央ロビー

光と風に溢れたふるさとの自然を感じる空間となるよう配慮。待合室上部はガラスとし、対面はハイサイドから光を取り入れることで、ふるさとの自然を常に感じられるデザインとする。



■ 立面图



北立面 scale 1:400



南立面 scale 1:400



東立面 scale 1:400



西立面 scale 1:400

室名	基本計画面積 -:未算出	基本設計面積 -:未算出	使用者 利用者 事務作業員 火葬炉作業員 管理業務作業員 葬祭業者	使用イメージ/デザインイメージ	留意点	仕上げ (木部には地場産材採用を検討)					天井高さ	什器・ 作り付け 家具	備品(本工事外)		
						床	巾木	壁	回縁	天井			火葬備品	一般備品	
1階(増築棟)															
エントランス1,2	270㎡	-	利 事 葬	告別室への棺台車動線を確保 告別室・収骨室への入室前の一待機 前面ガラス張りファサードから庭が望める開放性 最後のお別れの前、遺族の気持ち落ち着かせる内装 季節・時刻によりつらう自然光	40人×2グループが待機できるスペース 棺台車荷重に耐える床仕上げの選定 ガラス張りによる空調負荷を見込んだ空調容量設定、熱負荷低減 排煙窓による自然換気	石張り	石張り	左官材 一部木製 外壁面・ガラス張り	なし	木調ルーバー	デザイン により決 定	作り付けベンチ			
風除室1,2	-	-	利 葬	利用者の通過動線 棺台車の通過動線 特に冬季の空調負荷軽減	棺台車荷重に耐える床仕上げの選定 棺台車+付き添う利用者が無理なく通過できる幅員の確保 出/入を一方通行可できるプラン	石張り	SUS立ち上げ	ガラス張り	なし	アルミパネル	デザイン により決 定	ガードパイプ		傘立て	
告別室1~4	50㎡×4	47㎡×4	利 葬 火	利用者が最後のお別れを行う場(読経・焼香など) トップライトからの自然光による象徴性表現 雨天時は人工照明による見せ方を検討	棺台車荷重に耐える床仕上げの選定 エントランスホール側自動ドアはセンサー式、感知範囲を絞り無幹な開閉を避ける 炉入口自動ドアは蓋付BOX式、火葬炉作業員にて操作 焼香の換気に注意 未使用時の棺台車を収納(衝立などによる目隠しを検討)	石張り	石張り	木調ルーバー 上部左官材	なし	左官材	デザイン により決 定	作り付けベンチ	位牌置き		
収骨室1~4	50㎡×4	36㎡×2 42㎡×2	利 葬 火	トレイ式(間接収骨) 利用者による収骨を行う場、大人数の場合は告別室と一体利用 光ダクトからの自然光による象徴性表現 雨天時は人工照明による見せ方を検討	エントランスホール側を手動とするか自動ドアとするかは要検討 作業室への自動ドアは作業室側からのみスイッチ操作、火葬炉作業員にて操作 遺骨の換気に注意 床仕上げは台車通過部分とそれ以外(会葬者が倒れた際に衝撃吸収)で使い分け	石張り・一部ビニル床 シート張り(衝撃吸収 仕様)	石張り	左官材	なし	左官材、光ダクト	デザイン により決 定	作り付けベンチ	位牌置き		
客用男子WC(南)	-	-	利	※要レイアウト	ドアレスタイプ 大型フース配置を検討	石張り	SUS	メラミン化粧板張り	塩ビ	岩綿吸音板	2500	ペビーキープ、ペビーシー ト、ウォシュレット			
客用女子WC(南)	-	-	利	※要レイアウト	ドアレスタイプ 大型フース配置を検討	石張り	SUS	メラミン化粧板張り	塩ビ	岩綿吸音板	2500	ペビーキープ、ペビーシー ト、ウォシュレット			
多目的WC	-	-	利			石張り	SUS	メラミン化粧板張り	塩ビ	岩綿吸音板	2500	ペビーキープ、ペビーシー ト、オストメイト			
職員WC	-	-	事 火			ビニル床シート張り	シート立ち上げ	化粧ケイカル板	塩ビ	化粧石膏ボード	2500				
事務室(受付)	30㎡	22㎡+ 書庫4㎡	事 火	定員4名(事1名+火3名:台車操作)を想定 火葬申込書の受付		OAフロア(H100)の 上、タイルカーペット	ビニル巾木	ビニルクロス	塩ビ	岩綿吸音板	2500	オープンカウンター		事務机×4、PC机×2	
更衣室	10㎡	3㎡	事	上記事務員(女子想定)の更衣		タイルカーペット	ビニル巾木	ビニルクロス	塩ビ	化粧石膏ボード	2500			ロッカー2名分程度	
業者控室	10㎡	11㎡	葬	葬祭業者の控え室(4人程度)		タイルカーペット	ビニル巾木	ビニルクロス	塩ビ	岩綿吸音板	2500			4人がけテーブル、TV	
サービスヤード		16㎡	葬	仕出し弁当などの荷下ろし・荷捌き・仮置きスペース		ビニル床シート張り	ビニル巾木	ビニルクロス	塩ビ	化粧石膏ボード	2500				
廊下(事務室 南・東)	-	-	利・事	利用者がEVへ行くルート 兼 事務作業員動線	最終出口をサービスヤード経由でここに設ける	石張り	木製	ビニルクロス	塩ビ	木製	3300				
霊安室	10㎡	12㎡	火・利	安置する遺体の置場	棺台車荷重に耐える床仕上げの選定 棺台車が通れるスペース設定 棺台車がぶつかっても大丈夫な壁材選定	ビニル床シート張り	ビニル巾木	ビニルクロス	塩ビ	化粧石膏ボード	2500				
霊安室前廊下			火・事	霊安室から棺をエントランスホールに出すルート 遺体の臭気に対応する動線計画・換気容量設定	棺台車荷重に耐える床仕上げの選定 棺台車が通れるスペース設定 棺台車がぶつかっても大丈夫な壁材選定	ビニル床シート張り	木製	ビニルクロス、腰部合 板張り	塩ビ	岩綿吸音板	2500				
南WC前廊下			利・火・事	利用者によるWC使用ルート 霊安室から棺をエントランスホールに出すルート エントランスホールと連続したデザイン	棺台車荷重に耐える床仕上げの選定 棺台車が通れるスペース設定 棺台車がぶつかっても大丈夫な壁材選定	石張り	木製	木製	塩ビ	岩綿吸音板	3300				
管理室	20㎡	8㎡	管	定員4名程度を想定 霊安室への受け入れ等に対応		ビニル床シート張り	ビニル巾木	ビニルクロス	塩ビ	岩綿吸音板	2500	受付カウンター		打合せテーブル・椅子(4人掛け)	
運転手控室	-	10㎡	葬	バス運転手の控室		ビニル床シート張り	ビニル巾木	ビニルクロス	塩ビ	岩綿吸音板	2500	受付カウンター		打合せテーブル・椅子(4人掛け)	
利用者用更衣室	10㎡	5㎡	利	遠方からの利用者用		タイルカーペット	ビニル巾木	ビニルクロス	塩ビ	化粧石膏ボード	2500				
炉室	300㎡	245㎡	火	火葬中はほぼつきっきりで監視を行う	暑いのでスポット空調が必要 特殊消火設備設置緩和のため、200㎡防火区画	塗り床	同左立ち上げ	打ち放しのまま	なし	ガラスウールガラスク ロス押さえ	直天				
収骨作業室1~4	15㎡×4	15㎡×2 11㎡×2	火	収骨トレイへ焼骨を移し替えるスペース 台車置き場兼用で計画	収骨準備時の作業スペース・換気量を確保	塗り床	同左立ち上げ	EPG	塩ビ	化粧石膏ボード	2500	換気フード			
残灰室	30㎡	27㎡	火	集塵機械室から送風管で送られてくる残灰を収集 専用容器にためておき、業者により回収	回収時の車寄り付き	塗り床	同左立ち上げ	打ち放しのまま	なし	打ち放しのまま	直天				
制御室	100㎡	40㎡	火	火葬炉運転を集中監視、5~6人を想定。 予約状況を事務室と確認、運転スケジュールを立案	運営形態を想定のうえ、備品レイアウト検討を行う	OAフロア(H100)の 上、タイルカーペット	ビニル巾木	ビニルクロス	塩ビ	岩綿吸音板	2500		打合せテーブル+机・椅子×6、スチールラック W900×2、白板1,800×900		
休憩室	上記に含む	14㎡	火	火葬炉作業員の休憩	運営形態を想定のうえ、備品レイアウト検討を行う	畳敷き	畳寄せ	ビニルクロス	木製	化粧石膏ボード(杉 柱)	2500		TV		
作業員洗面室	上記に含む	上記に含む	火	作業服を洗濯・乾燥	洗濯パン必要	ビニル床シート	ビニル巾木	ビニルクロス	塩ビ	化粧石膏ボード	2400		洗濯機、乾燥機、洗面化粧台		
作業員シャワーブース	上記に含む	上記に含む	火	火葬炉作業員用	ユニットシャワー							LPGガス給湯器			
更衣スペース	上記に含む	上記に含む	火	火葬炉作業員の更衣		タイルカーペット	ビニル巾木	ビニルクロス	塩ビ	岩綿吸音板	2500		ロッカー6人分、すのこ、流し台(IH対応コンセ ント、給湯器)、冷蔵庫		
備品庫	15㎡	11㎡	事	運営資料、竣工図書などを収納		ビニル床タイル	ビニル巾木	ビニルクロス	塩ビ	化粧石膏ボード	2500				
小出し槽室	15㎡	14㎡	火	火葬炉燃料の小出し槽置き場+火葬炉燃料ポンプ置き場		塗り床	同左立ち上げ	打ち放しのまま	なし	打ち放しのまま	直天				
消火ポンプ室	30㎡	14㎡	火	屋内消火栓用		塗り床	同左立ち上げ	打ち放しのまま	なし	打ち放しのまま	直天				
ろ過ポンプ室	-	14㎡	事	雨水利用用		塗り床	同左立ち上げ	打ち放しのまま	なし	打ち放しのまま	直天				

室名	基本計画 面積 -:未算出	基本設計 面積 -:未算出	使用者 利用者 事務作業員 火葬師作業員 管理業務作業員 葬祭業者	使用イメージ/デザインイメージ	留意点	仕上げ (木部には地場産材採用を検討)					天井高さ	什器・ 作り付け 家具	備品(本工事外)	
						床	巾木	壁	回縁	天井			火葬備品	一般備品
1階(既存棟改修)														
待合室1~4	50㎡×3+ 73㎡	45㎡×3 68㎡	利・葬	最大80人に2室一体で対応、火葬時間1~1.5時間に待機。	増築棟待合室と同グレード 飲み物をついで回るため、家具レイアウト余裕が必要 北側既存庭園への景観を考慮	フローリング	木製	クロス張り	木製	木製	2700			テーブル、椅子
待合室給湯コーナー	上記に含む	上記に含む	利・葬	待合時の給湯に使用 葬祭業者が持ち込む仕出し弁当や飲み物の仮置きスペース		ビニル床シート	ビニル巾木	ビニルクロス、 一部メラミン化粧板	塩ビ	化粧石膏ボード	2500	流し台(電気ポット用コン セント、電気温水器)、冷 蔵庫		
授乳室	10㎡	6㎡	利	利用者による授乳スペース	高窓等による廊下からの明り取り	ビニル床シート	ビニル巾木	メラミン化粧板張り	塩ビ	岩綿吸音板	2500	熱湯栓付き電気温水器 ミニキッチン		授乳ソファ
自販機コーナー	10㎡	10㎡	利	対面にロッカーを設置		ビニル床シート	ビニル巾木	ビニルクロス	塩ビ	岩綿吸音板	2500			自販機、コインロッカー
客用男子WC(北)	-	-	利・管	1階主要使用はこちら、管理業務作業員も使用 グレードは東西同一	ドアレスタイプ 大型フース配置を検討	石張り	SUS	メラミン化粧板張り	塩ビ	岩綿吸音板	2500	ベビーキープ、ベビーシー ト、ウォッシュレット		
客用女子WC(北)	-	-	利・管	1階主要使用はこちら、管理業務作業員も使用 グレードは東西同一	ドアレスタイプ 大型フース配置を検討	石張り	SUS	メラミン化粧板張り	塩ビ	岩綿吸音板	2500	ベビーキープ、ベビーシー ト、ウォッシュレット		
多目的WC	-	-	利			石張り	SUS	メラミン化粧板張り	塩ビ	岩綿吸音板	2500	ベビーキープ、ベビーシー ト、オストメイト		
待合室前廊下	-	-	利・火・事	利用者による待合室・WC使用ルート エントランスホールと連続したデザイン		石張り	木製	木製	塩ビ	岩綿吸音板	3300			
会議室	54㎡	51㎡	事 利	見学会の説明時、特別な事情によるお見送りの場として使用	インテリアデザインはお見送りのための一定グレード確保	OAフロア(H100)の 上、タイルカーベット	木製	ビニルクロス/木製腰 壁	塩ビ	岩綿吸音板	2700		位牌置き 焼香台	テーブル/椅子、スクリーンBOX、スクリーン、 プロジェクター、音響機器
倉庫	30㎡	6+8㎡	事	運営資料、竣工図書、葬祭用備品などを収納		ビニル床シート	ビニル巾木	ビニルクロス	塩ビ	化粧石膏ボード	2500			
屋外倉庫	-	10㎡	管	庭園メンテナンスなどを収納		塗床	同左立ち上げ	打ち放しのまま	なし	打ち放しのまま	2500			
2階(増築棟)														
ロビー1,2	-	-	利	最後のお別れが終わった参列者が待合室に入る前に待機する 待合室から一時出て気分転換を行う		フローリング	木製	クロス張り	木製	木製	2700~			ソファ、テーブル、自販機
売店	10㎡	9㎡	利	数珠、ネクタイ、骨壺、乾き物などを販売		ビニル床シート	ビニル巾木	ビニルクロス	塩ビ	化粧石膏ボード	2500			
待合室1~4	60㎡×4	59㎡×4	利・葬	最大96人に2室一体で対応、火葬時間1~1.5時間に待機。	飲み物をついで回るため、家具レイアウト余裕が必要	フローリング	木製	クロス張り	木製	木製	2700~			テーブル、椅子
待合室給湯コーナー	上記に含む	上記に含む	利・葬	待合時の給湯に使用 葬祭業者が持ち込む軽食や飲み物の仮置きスペース		ビニル床シート	ビニル巾木	ビニルクロス、 一部メラミン化粧板	塩ビ	化粧石膏ボード	2500	流し台(電気ポット用コン セント、電気温水器)、冷 蔵庫		
授乳室		5㎡	利	利用者による授乳スペース	高窓等による廊下からの明り取り	ビニル床シート	ビニル巾木	メラミン化粧板張り	塩ビ	岩綿吸音板	2500	熱湯栓付き電気温水器 ミニキッチン		授乳ソファ
キッズコーナー		11㎡	利		高窓等による廊下からの明り取り 子供の声が届かないよう、一定の防音	タイルカーベット	ビニル巾木	メラミン化粧板張り	塩ビ	岩綿吸音板	2500	電気温水器 ミニキッチン		授乳ソファ、給湯器
待合室前廊下	-	-	利		40人程度が一度に外に出てくるので、2.5m以上の幅員を確保	フローリング	木製	クロス張り	木製	木製 一部 排煙兼用トップライト	2700~			ソファ、テーブル、椅子
客用男子WC(南)	-	-	利・管	グレードは東西同一	ドアレスタイプ 大型フース配置を検討	石張り	SUS	メラミン化粧板張り	塩ビ	岩綿吸音板	2500	ベビーキープ、ベビーシー ト、ウォッシュレット		
客用女子WC(南)	-	-	利・管	グレードは東西同一	ドアレスタイプ 大型フース配置を検討	石張り	SUS	メラミン化粧板張り	塩ビ	岩綿吸音板	2500	ベビーキープ、ベビーシー ト、ウォッシュレット		
多目的WC	-	-	利			石張り	SUS	メラミン化粧板張り	塩ビ	岩綿吸音板	2500	ベビーキープ、ベビーシー ト、オストメイト		
サービスヤード		9㎡	葬	仕出し弁当などの荷下ろし・荷捌き・仮置きスペース		ビニル床シート張り	ビニル巾木	ビニルクロス	塩ビ	化粧石膏ボード	2500			
集塵機械室	492㎡	445㎡	火	集塵機ほか火葬炉機械を収納		塗床	同左立ち上げ	打ち放しのまま	なし	ガラスウールガラスク ロス押さえ	直天			
共通														
吹抜部 階段	-	-	利・葬											
機械室 階段	-	-	火											
EV(客用)	-	-	利・葬	利用者(特に高齢者、車椅子利用者等)の上下移動	インテリアグレードに見合った内装									
EV(荷物・ストレッチャー用)			利・葬	通常は2階での飲食用、待合時に気分が悪くなった人が出た場合などは利用者が使用する。	ストレッチャーが入る寸法 利用者も乗るので、相応の内部仕上げ							防護フェルト		

■秦野斎場 構造計画 概要書

●基本コンセプト

『地域共同体の再生⇒本源社会再構築への礎となる、大地・風土と一体となった悠久の命を持つ施設』

1.安心安全な施設～災害時に地域の人達に安心を提供できる施設～

- ・耐震安全性の分類I類施設同等とし標準建物の 1.25 倍の耐震性を確保します。(保有水平耐力 1.25 倍)

※II類施設

- ・大地震動後、構造体の大きな補修をすることなく、建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られている施設。例:多数の者が利用する施設 学校施設、社会教育施設、社会福祉施設等
- ・設備機器については地震時に機能障害が生じない支持とします。

2.無駄のない合理的な構造計画～限りある資源を有効利用した施設～

- ・RC 壁等の部材を耐震要素として積極的に利用します。
- ・火葬炉等の本施設特有の設備機器の配置に合わせて、柱梁サイズを設定することでスペースの有効利用を図ります。

3.いつまでも地域に根付いた施設～周辺環境との一体化・環境維持～

- ・長寿命化対策をすることで、いつまでも地域に根付いた施設とします。
- ・将来建替え・改修・切回しに配慮した計画とします。
- ・周辺環境を維持した施工計画及び施設とします。

●増築部計画

1.計算ルート

- ・計算ルートは、ルート3 とし、保有水平耐力の確認を行います。

2.構造種別

RC 造+S 造

- ・火葬炉エリアは耐火・遮音・振動性能などの要求性能を満足させるために RC 造とします。
- ・その他のエリアについては、空間イメージや市場状況(コンクリート型枠・労務費の高騰等)を踏まえて、S 造の使用を検討します。
- ・特にエントランス周りや 2 階待合室、ロビーは周辺環境と一体になる開放的で安らぎを感じられる空間となるように S 造とします。

3.地上部構造形式

X 方向 耐震壁付ラーメン構造

Y 方向 耐震壁付ラーメン構造

- ・用途上必要になる RC 壁を構造体として積極的に利用し、メインフレームへの負担を少なくすることで、躯体・鉄筋等を減量しコストを削減します。
- ・火葬炉等の本施設特有の設備機器の配置に合わせて、柱梁サイズを設定することでスペースの有効利用を図り、コンパクトで階高を抑えた計画とします。

4.基礎構造形式

直接基礎

- ・建物規模と、敷地の地盤構成、地下水位等から直接基礎とすることでコストを削減します。
- ・周辺環境への影響に配慮して、土工事は地下水位より高い位置で行い、地盤改良の範囲は極力少なくできる工法を検討します。
- ・掘削深さを抑えて掘削土量の削減を行い、コストを縮減します。

●既存棟(待合室棟)

- ・既存建物を有効に利用することで、コストの削減及び資源の有効利用を図ります。
- ・安心して使える施設となるように現行建築基準法の耐力規定に適合する耐震改修を行います。
- ・屋上緑化を新設することで荷重が増えるため柱梁の補強、RC 壁の新設等が必要になります。
- ・屋上緑化のグレードと補強コストの関係を比較することで補強方針を決定していきます。

●共通事項

1.地震力に対する設計

- ・建築基準法施行令第88条に基づき、地震力を算定します。標準せん断力は、中小地震を対象とした一次設計のせん断力係数は $C_0=0.2$ とし、層間変形角は 1/200 以下とします。
- ・二次設計においては、層間変形角 1/200 以下、必要保有水平耐力の 1.25 倍の耐力を確保し、大地震後の安全性及び機能を確保します。

2.常時荷重に対する設計

- ・固定荷重は、材料の種別および部材寸法に基づき、実情に応じて算出します。
- ・積載荷重は、各部屋の用途に応じて算出します。
- ・長期荷重(固定荷重+積載荷重)に対して全部材が長期許容応力度以内になるように設計すると共に、大梁、小梁、床スラブに適切な断面寸法を設定することにより、過大なたわみや振動障害などが発生しないようにします。

3.積雪荷重に対する設計

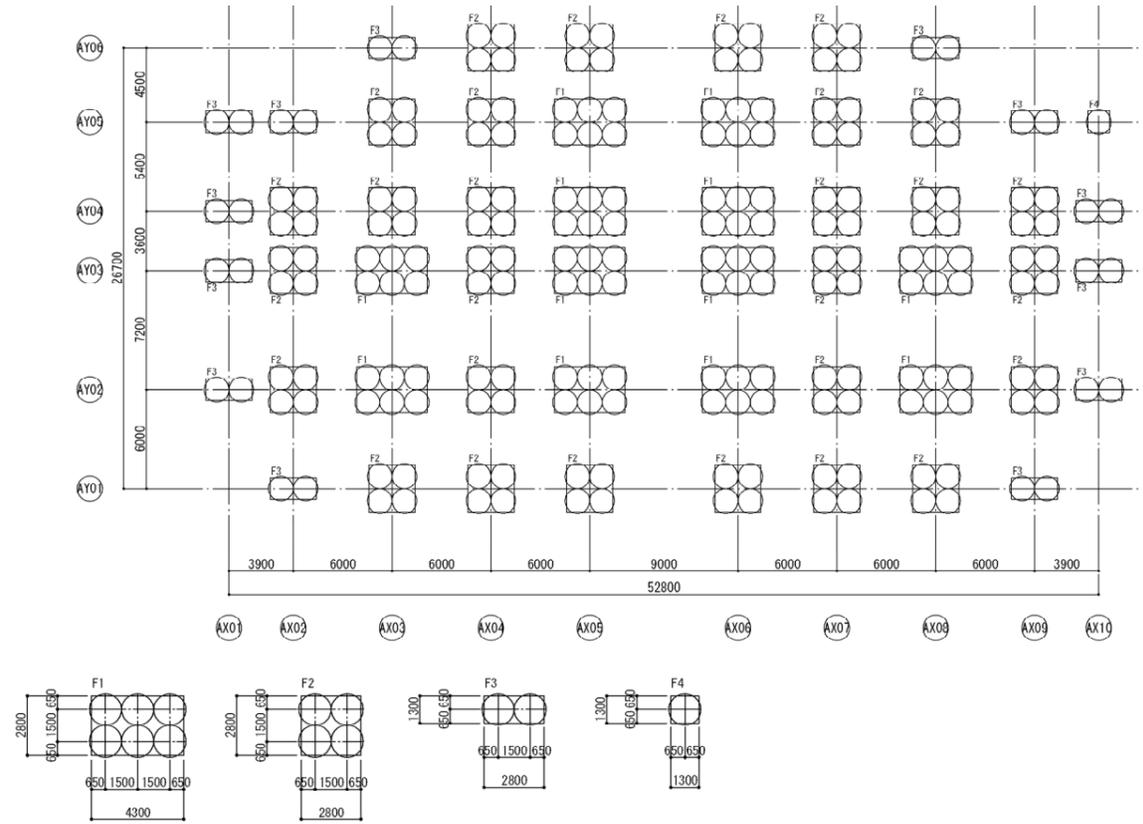
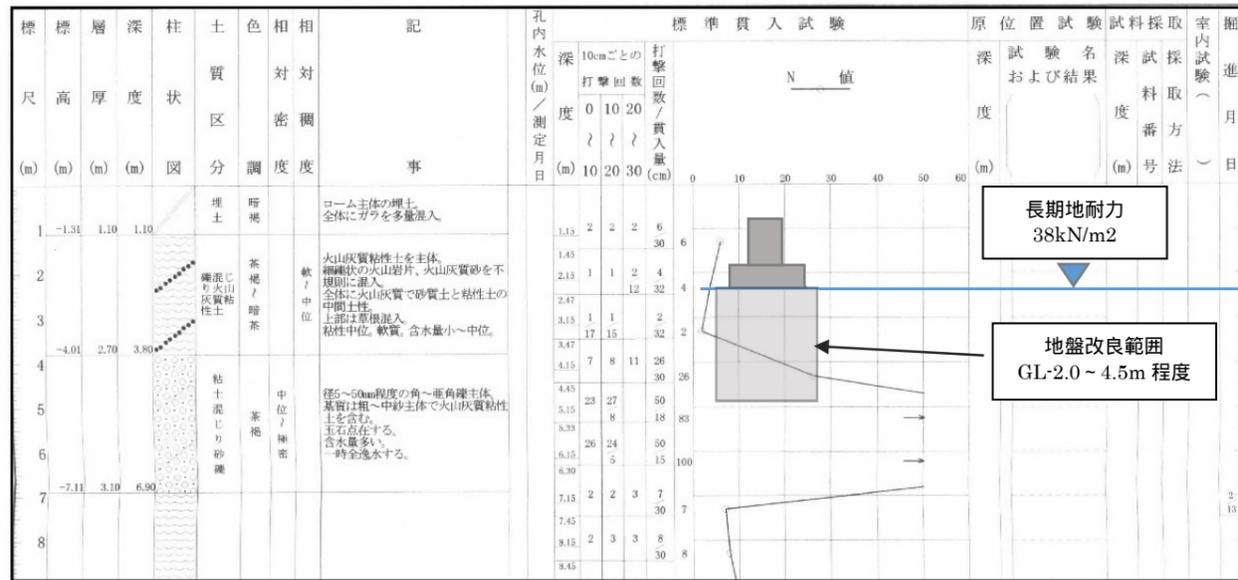
- ・積雪荷重は、特定行政庁が定める荷重以上とし、過去に記録した異常気象による大雪を上回る荷重として、1200N/m²(積雪 30cm の 2 倍)を設定します。
- ・積雪荷重に対して、全部材が短期許容応力度以内となるように設計を行うことにより、構造体に損傷を生じさせないようにします。

4.風荷重に対する設計

- ・官庁施設の基本的性能基準(国土交通省大臣官房庁営繕部監修)に基づき、災害時利用施設として位置付けられた施設として、建築基準法施行令第87条に規定される風圧力の 1.15 倍(100 年再現期間相当)を風荷重として設定します。
- ・風荷重に対しては、全部材が短期許容応力度以内となるように設計を行うことにより、構造体に損傷を生じさせないようにします。

●基礎計画

・地盤調査の結果より長期地耐力は 38kN/m² であるため、ベタ基礎とした際に必要となる地耐力 (100 kN/m² 程度) を確保することができないため、地盤改良範囲が少なくなる独立基礎+地盤改良を検討します。



地盤改良想定範囲図

■秦野斎場 環境配慮計画 設備概要書

基本コンセプト

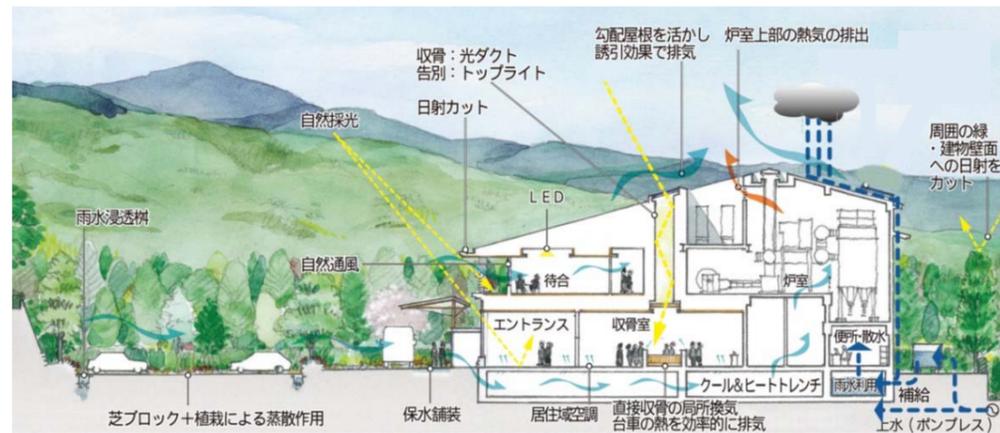
『地域共同体の再生⇒本源社会再構築への礎となる、大地・風土と一体となった悠久の命を持つ施設』

●基本方針：自然の恵みを活かし、環境と共生する斎場

◆自然エネルギー(光・風・熱・水)の有効利用

自然エネルギーを有効に利用して、環境に配慮した省エネルギー計画を実現してランニングコストの削減を行います。

- ・**光**: トップライト、光ダクト、光庭を設け、インテリアデザインのシーンに合わせた自然光の利用を計画すると共に、効果的な自然光の利用により照明電力の削減を図ります。
- ・**風**: 夏・中間期に南方から吹く卓越風(風速平均 2.2m/s)を活かし、勾配屋根と換気窓の誘引効果により排気します。
- ・**熱**: 炉からの排熱、地中の冷気を有効利用し空調負荷低減に努めます。
- ・**水**: 上水は給水ポンプが不要な水道直結方式により省エネを図ります。また、便所洗浄水や屋外散水に雨水を利用し、ランニングコストの削減と災害時にも水の供給可能な計画とします。



A : LCC・LCCO2削減効果大 B : LCC削減効果がある
C : 防災・周辺配慮向上効果が大きい

効果	採否	省エネルギー手法
自然エネルギー・建築	B	○ ケール&ヒートトレンチ
	B	○ 自然通風
	B	○ 日射遮蔽
	A	○ 長寿命化
	○	○ 複層ガラス
	C	○ 屋上緑化(既存棟)
	C	× 太陽光発電5kw
	B	○ ナイトバージ
空調・換気	B	○ 光ダクト(取骨室)
	B	○ トップライト(告別室)
	B	○ 高効率空調機
	B	○ 全熱交換器
	B	○ 高効率電動機
	B	○ 居住域空調(ENT/告別/取骨)
	B	○ 炉の廃熱利用
給排水	B	○ 雨水利用システム
	B	○ 高効率給水ポンプ
	B	○ 節水器具
給湯	B	○ 潜熱回収型給湯器
電気	A	○ LED+昼光制御
	B	○ エコケーブル
周辺環境の向上に貢献するもの	○	○ 敷地内緑地
	○	○ 保水性舗装
	×	× 緑化ブロック

◆各設備計画概要

1. 電灯コンセント設備(光)

- ・エントランス、階段室、展望ロビー等は、日中の自然光を最大に利用して明るい室内とします。
- ・告別室はトップライト、取骨室は光ダクトを設け、自然と一体となった象徴的な空間とし、補助的に人工照明を使用します。
- ・自然光の補助としての人工照明は、省エネを考慮して高効率で長寿命なLED照明器具を基本とし、保守管理の容易さに配慮します。
- ・トイレ及び更衣室には人感センサー制御を採用し、無駄な電力使用を防ぎます。
- ・各室及び共用部の照明点滅は、リモコンスイッチによる現地及び管理室からの多箇所操作とします。現地スイッチの他1階事務室及び火葬炉制御室に集中リモコンスイッチを設置して、遠方操作と状況管理を可能にすることで、照明の消し忘れを防ぎます。
- ・太陽光パネルは、災害時対応効果・費用対効果を検証した結果、採用を見送ります。

2. 換気設備(風・熱)

- ・炉室上部の熱だまりを利用した煙突効果で、自然換気により効率的に熱を排出します。排気量が不足する際には排気ファンにて排気します。
- ・炉室や告別室・取骨室の外気取り入れは、夏季はクールトレンチを経由した冷気を取り入れ、冬季、外気ダクトは炉室内の熱を吸収して外気をあたためます。さらにヒートトレンチを経由し室内に暖かい空気を供給し、外気負荷の低減に努めます。(地下水位はボーリング調査により調査中。)
- ・待合室・事務室は、全熱交換器により熱交換を行い、空調負荷の低減に努めます。
- ・各トイレの排気は人感センサーとし、省エネに努めます。

3. 空調和設備(熱)

- ・利用状況によって運転できるように、維持管理および個別制御性に優れた個別空調機(ビル用マルチ空調機)を採用し、使用しないゾーンは室内機を停止し省エネルギーに努めます。
- ・管理ゾーンである事務室、制御室、管理室、休憩室、業者控室は、電気式で小型の店舗用エアコン又はルームエアコンとし、より個別性を向上させ不在時には室外機を停止し、省エネルギーに配慮します。
- ・エントランス・告別室・取骨室・待合室等の利用者ゾーンは、熱源比較検討(電気・都市ガス・プロパンガス)を行い、最も合理的なプロパンガスを採用します。

評価項目	電力	都市ガス		プロパンガス
		タンク有	タンク無	
供給の安定性と価格変動	○	○	○	○
CO2排出量の抑制	△	◎	○	○
安全性	◎	○	○	○
災害時の供給等	△	◎	△	◎
コスト	△	△	◎	◎
総合評価	△	○	◎	◎

■評価指標
◎：非常に優れている
○：優れている
△：やや劣る

4. 給排水衛生設備(水)

- ・便所洗浄水や屋外散水は、屋根から集水した雨水を地下ピットにため、資源の有効利用に努めます。
- ・上水は給水ポンプが不要な水道直結方式として、省エネルギーに努めます。雑用水システムの補給水のみ一時貯留することで、ポンプの省電力化を図ります。
- ・トイレ手洗いは自動水栓とし、節水を図ります。

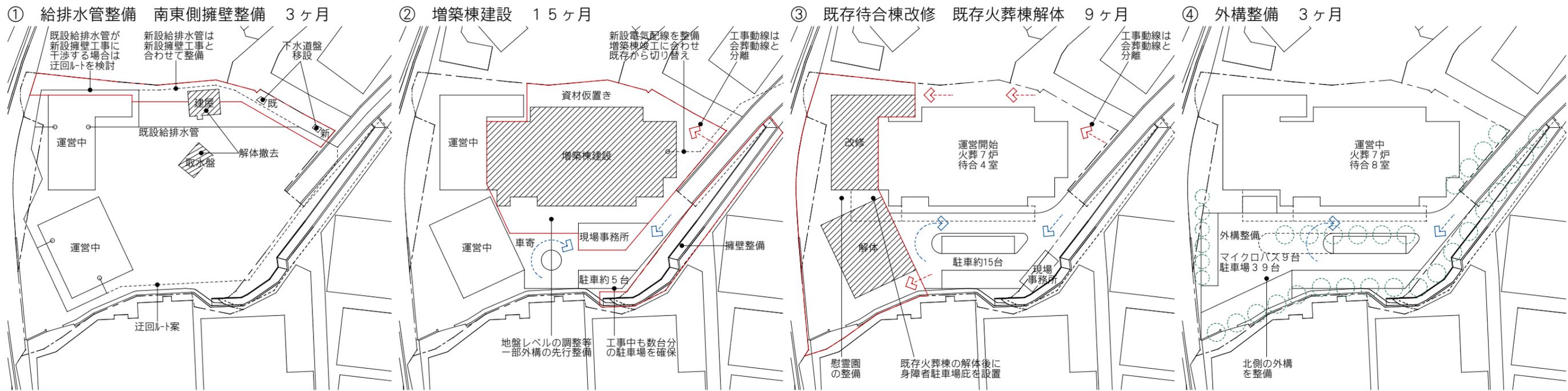
◆防災設備

- 災害時にも火葬が継続して行え、また避難所としても利用できるように対応します。
- ・火葬業務を継続するため、非常用発電機の燃料は3日分、火葬炉燃料は7日分の灯油備蓄を行います。
- ・1階待合室および会議室(多目的室)の空調機は停電時も運転可能な、自立型GHP(非常電源を持ったガスヒートポンプ空調機)を検討し、体温調節が不自由な避難者の避難場所とします。
- ・制御室の空調機は非常用発電機によりバックアップを行い、停電による作業環境の悪化をおさえ、炉の運転に支障のないようにします。
- ・給水は直結給水なので停電時も使用可能であり、トイレ洗浄等にも利用可能です。
- ・給水本管が破損した場合でも水を確保できるように、雑用水への補給水槽には緊急遮断弁付きとします。
- ・防火水槽40m³は、建物地下ピットを利用した計画とします。
- ・各設備には耐震性の高い材料を使用するなど、防災機能の向上を図ります。

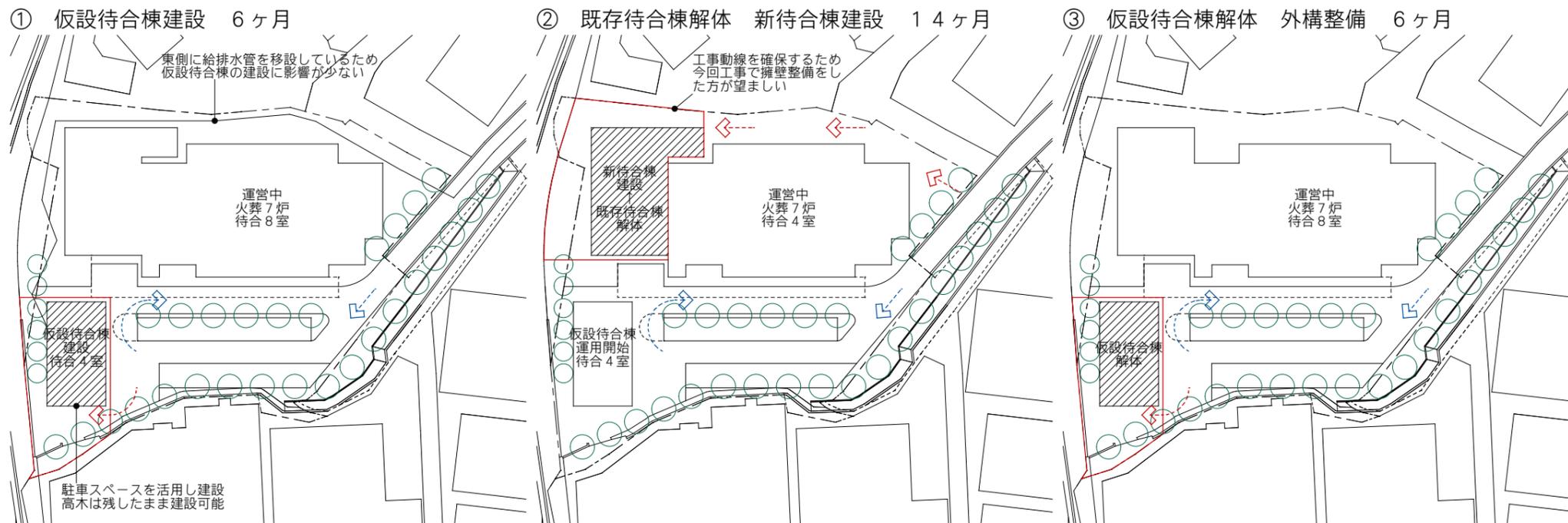
◆インフラ切り直し計画

- ・改修、増築、現地建替えを見据えた計画とします。

今回の改築計画 全ての工事工程で安全性と利便性を確保する、使いながらの工事計画 合計30ヶ月



将来の改築計画 既存待合棟の老朽化に伴う将来の改築を想定し、今回の配置・インフラ・外構計画を行う



□ 仮囲い ◀---工事動線 ▶---会葬者動線

0 5 10 30 60 120m

A1 S=1:600 A3 S=1:1200



■建築概要

■物件名	秦野斎場施設整備設計業務委託		
■主要用途	火葬場 集会場		
■工事種別	増築 既存棟および 大規模模様替		
■建築面積	約 2500.00㎡	建べい	46.06%
■延床面積	約 3500.00㎡	容積	64.49%
■階数高さ	2階	14m	
■構造	RC造	一部 S造	
■棟数	1棟		

■敷地概要

■所在地	住居地番	神奈川県秦野市首屋1006番地	
■敷地面積	実測	5250.92㎡	台帳理由 5192.27㎡
	都決	5427.30㎡	河川区域を賃借
	申請	5427.30㎡	都決に合わせる
■敷地測量	敷地真北高低差	済 済 済 済	
■境界確定	済 宅地 畑 雑種地 山林 など ※変更必要か		
■地目調査	済 宅地 畑 雑種地 山林 など ※変更必要か		
■道路幅員	南	6m 1項1号	市道 361号線
	南東	6m 1項2号	私道
	北西	隣地	
	北東	河川	
	容積算定幅員	6m	
■都計道路	無	事業決定	年 月
■里道水路	未		
■区域面積	全体	5427.30㎡	—
■用途地域	都市計画用途地域特別用途制限建築可否	市街化区域 工業地域 無 無 火葬場は都市計画決定で可	
■防火地域	22条指定地域		
■高度地区	無		
■建べい率	緩和/指定	60%/60%	
	緩和	無	
	許容面積	3256.38㎡	> 計画2500㎡
■容積率	緩和/指定	200%/200%	
	緩和	無	
	許容	10854.60㎡	> 計画3500㎡
■絶対高さ	無		
■日影規制	規制時間	無	
	測定緯度	北緯35° 30' 00"	← 秦野市
	敷地外の影響	2h/3h/1.5m	← 北側が—低層地域
■斜線制限	道路	1:1.5/20m	
	隣地	1:2.5/31m	
	北側	無	
	高度	無	
	天空率の利用	無	
	採光	工業系1:4/5m	
■一団地連担設計制度	無		
■総合設計制度	無		
■都市計画法開発許可	無	建基法51条許可申請必要=火葬場都市計画決定	
■地区計画	無		
■土地区画整理事業	無		
■建築協定	未		
■景観地区	有	景観計画区域内(市全域)で規則別表による行為高さ10m超延1000㎡超の建築を行う場合は届出	
■風致地区	無		
■河川区域	有	150109工作物変更無の場合は手続き不要 防音壁等、新たに設置する場合は許可申請必要	
■河川保全区域	有	150109駐車場、植栽整備で許可申請必要 既存火葬棟、煙突等の除去戻しは許可対象外 着工までに許可申請必要 ※待合棟改修、雨水道整備が許可対象か確認要 ※待合棟改修、雨水道整備が許可対象か確認要	
■砂防区域	有	050109駐車場、植栽整備で許可申請必要 ※待合棟改修、雨水道整備が許可対象か確認要 ※いつまでに許可申請が必要か確認要	
■その他の地域地区	無		
■埋蔵文化財包蔵地	無	150209確認済	
■電波伝搬障害防止区域	無	建築物の高さ31m以下	
■その他	無	高度地区、高度利用地区、特定街区、美観地区 都市再生特別地区、特定用途制限地域、 高層住居地区、駐車場整備地区、風致地区 無	
■災害対策地域地区	無		
■土砂災害特別警戒区域	無	110817確認済	
■急傾斜地崩壊危険区域	無	110818確認済	
■その他	無	特定防災街区整備地区、宅地造成等規制法、 宅地造成防災区域 無	
■その他	・計通の申請敷地は都決面積に合わせる⇒実測との差176.38㎡は河川区域で調整 ・西側拡張整備部は申請敷地面積から除くが、秦野市まちづくり条例は対象敷地 ・西側道路沿道と西側隣地が崖地⇒敷地外だが擁壁工事が計画され、設計に含む ・北西隣地の擁壁は検査済証が無い場合、崖地扱い⇒近接して建物は配置しない		

■単体規定関係法令

■建築基準法上の主要規定：秦野市都市部建築指導課			
確認申請上の用途	火葬場 集会場		
地階・避難階判定	敷地に大きな高低差が無く1階が避難階		
別表1 耐火・準耐火	集会場≧200㎡で耐火建築物		
令23条	階段各部の寸法	屋内：蹴上≧18cm/路面≧26cm/幅≧140cm	
~27条		屋外：蹴上≧18cm/路面≧26cm/幅≧90cm	
		屋内外共通：高さ3m毎に踊場設置	
		面積区画≦1,500㎡/竪穴区画	
令112条	防火区画	火葬場、集会場用途は不要	
令114条	界壁区画	火葬場、集会場用途は不要	
令120条	歩行距離(重複)	有窓居室≦50m(25m)/無窓居室≦30m(15m)	
令121条	2以上の階段	集会場は規模に関係なく必要	
令122条	避難階段の種類	直通階段	
		片廊下幅≧1.2m/中廊下幅≧1.6m	
令119条	廊下	出入口から道路に至る経路幅≧1.5m	
令128条	敷地内通路	特殊建築物>500㎡ 階数≧3で面積>500㎡	
令126条	排煙設備	排煙上有効開口<1/50居室 延1000㎡で200㎡超の居室	
-2		→計画建物は該当	
告1436	排煙告示緩和	高さ≦31mの建築物の部分にある室	
-4-1/8→2	(1)(2)	内装準不燃かつ居室に面した開口部を防火設備で区画	
		又は100㎡以下の室で防煙区画したもの	
告1436	排煙告示緩和	高さ≦31mの建築物の部分にある居室	
-4-1/8→2	(3)(4)	100㎡で防火設備で区画かつ内装準不燃	
		又は100㎡以内とし内装下地とも不燃としたもの	
令128条	内装制限	火気使用室：準不燃	
-3		集会場客席≦400㎡の居室：難燃 通路：準不燃	
		天井下80cm開口<床面積1/50の居室及び通路：準不燃	
令19条	採光	採光≧1/20で有窓 採光を確保すべき対象居室無	
令20条	換気	居室<1/20無窓の場合、自然換気設備、機械換気設備 中央空調のいずれかの換気設備を設ける	
		火気使用室には換気設備を設ける	
令126条	非常用進入口	階≧3で道又は道に通じる幅員≧4m通路面に設置	
-6		外壁面に、非常用進入口≦40m/代替進入口≦10m	
-7		進入口寸法 高さ≧120cm幅≧75cm 又は直径1m内接円	

■バリアフリー法の主要規定：秦野市都市部建築指導課			
申請上の扱い	集会場は特別特定建築物 適合義務対象建築物≧2000㎡		
建築物移動等円滑化基準	令11条 廊下 滑りにくい仕上、点状ブロック		
令12条	階段	手摺設置、滑りにくい仕上、点状ブロック	
令13条	傾斜路	勾配>1/12 手摺設置 滑りにくい仕上、点状ブロック	
令14条	便所	車椅子利用者用便所≧1	
令16条	敷地内通路	段がある場合は同12条、傾斜がある場合は同13条	
令17条	駐車場	車椅子利用者用駐車場≧1、車室幅≧3.5m	
令18条	利用円滑化経路	出入口 幅≧80cm、自動的開閉する構造他車椅子利用者が容易に開閉して通過できる構造	
		廊下 幅≧120cm、転回スペース≧50m/箇所	
		傾斜路 幅≧120cm、勾配≦1/12、踊り場≧75cm/箇所	
		E V 出入口幅≧80cm、かご奥行≧135cm、口ビー≧150cm角 かご幅≧140cm、音声案内装置を設置	
		敷地内通路 幅≧120cm、転回スペース≧50m/箇所、自動開閉装置 傾斜路幅≧120cm、勾配≦1/12、踊り場≧75cm/箇所	

■消防法上の主要規定：秦野市消防本部予防課			
防火対象物	火葬場 前各項に該当しない事業所(15項)		
無窓階判定	無窓階		
令10条	消火器	有 延床≧50㎡(無窓) 歩行距離≦20m/箇所	
令11条	屋内消火栓	有 延床≧600㎡(無窓耐火) 25m/箇所	
令12条	スプリンクラー	無 階数≧11	
令13条	特殊消火設備	無 火気使用室≧200㎡ ⇒炉室は200㎡毎に区画	
令19条	屋外消火栓	無 1,2階延床≧9000㎡ 40m/箇所	
令21条	自動火災報知機	有 延床≧300㎡(無窓)	
令22条	漏電火災警報機	有 延床≧1000㎡ 契約電流50Aを超えるもの	
令23条	火災通報設備	有 延床≧1000㎡	
令24条	非常警報器設備	有 収容人数≧20人	
令25条	避難器具	無 階≧3	
令26条	誘導灯誘導標識	有 無窓階 C級以上	
令27条	消防用水	有 敷地≧20000㎡かつ耐火1,2階床面積計≧15000㎡ ただし既存分確保	
令28条	連結散水設備	無 地階床面積≧700㎡	
令29条	連結送水管	無 階数≧5かつ延床面積≧6000㎡	
規12条	非常電源設備	有 特定防火対象物延床≧1000㎡	
危令09	一般取扱所	発電機用オイル7/950Lが該当	
危令13	危険物貯蔵所	地下オイル7/918000Lが該当	

■神奈川県墓地等経営の許可等に関する条例：保健福祉局生活衛生部環境衛生課	・墓地埋葬等に関する法律11条により非該当 ※基準の緑地20%に近づけるように計画を行う
--------------------------------------	---

■土壌汚染対策法：神奈川県湘南地域県政総合センター環境部環境保全課	・3000㎡以上の土地の形質変更(掘削盛土)を行う場合は申請
-----------------------------------	--------------------------------

■厚生省令石綿障害予防規則：秦野市都市部建築指導課	・解体建物にアスベストが含まれる場合は届出
---------------------------	-----------------------

■その他	
------	--

■条例

■秦野市建築基準条例：秦野市都市部建築指導課	
秦野市は特定行政庁	
5条	高さ3m超のがけ下端から高さ2倍以内の範囲に建築する場合は擁壁設置 →敷地南西側のがけ注意 →今回工事合わせ擁壁整備予定
6条	延べ1000㎡超建築物の敷地は6m以上接道
7条	日影規制は2h/3h/1.5m
待合室(約550㎡=1階290㎡+2階260㎡)は集会場に該当	
10条	屋外の出幅≧90cm 道路に至る経路幅≧120cm 勾配≦1/12
11条	居室の出幅≧80cm
12条	廊下幅≧120cm
13条	階段は回り段としてはならない
36条	集会場300㎡以内(該当面積の1/2で算定)のものは幅員5.4m以上の道路に敷地周長の1/7以上接道 →集会室の計画面積550㎡×1/2=275㎡で300㎡以内 →敷地外周332m×1/7=47.4m<接道長さ65m →OK
37条	主要な屋外出入口から道路まで間口5m以上の前面空地を設ける →150314車寄せ車路幅を5m以上とし道路まで接続
38条	客用屋外出口幅≧1.2m/箇所 幅合計≧客席面積÷10㎡×耐火構造17cm →出口幅計550cm 出口幅1/3以上、前面空地に面するよう計画
39条	客席の階段は回り段としてはならない
40条	出口が前面空地に面しない時は、出口から道路に至る敷地内通路≧1.5mを確保(客席面積300㎡以内の場合)通路に3段以下の段を設けない
41条	客席は両側及び後方廊下を設けること 階における客席面積の合計が150㎡以下(耐火構造は300㎡以下)の場合は片側とすることができる 客席出口幅≧1.2m 3段以下の段を設けない →150314固定席でなくても該当 面積1/2 →片側廊下でよい
44条	客席床面積30㎡~200㎡の場合、出入口数2 →150314待合室1室毎の面積の1/2を基準 →待合室60㎡まで出入口1

■神奈川県みんなのバリアフリー街づくり条例：秦野市都市部建築指導課	
申請上の扱い	集会場は特別特定建築物 適合義務対象建築物≧500㎡
バリアフリー法とは別に申請必要 事前協議は確認申請30日前までに済ませる	
2条	官公庁施設は公共的施設に該当
12条	公共的施設の整備基準を規制で定める →本文及び整備基準参照
13条	公共的施設を新築等しようとするものは整備基準を遵守
29条	バリアフリー法特別特定建築物に追加する特定建築物
31条	建築物利用円滑化基準に付加する事項 階段上端近接部分(踊り場合含む)に点字ブロック等を敷設 主たる階段の踊り場に手すり設置 回り段としない 利用円滑化経路 地上へ通じる出入口幅≧90cm 敷地内通路幅≧140cm

■秦野市まちづくり条例：秦野市都市部開発指導課	
141224該当区域は、計画申請敷地+西側敷地拡張部=5931.12㎡	
16条	環境創出行為をしようとする事業者は事前協議
39条	市、組合による行為は適用除外 →141224適用外だが確認のため各課協議必要 また基準は適用される
近隣説明、届出、手続き等の記載があり、本文を確認のこと	
主な基準	
規則28条	敷地面積15%(約890㎡)の緑地確保 →141224緑化ブロックは不算入 緑化擁壁はH1mまで算入可
規則30条	公園の設置 代わりの協力金
規則31条	空地の確保 敷地境界線から1m後退
規則35条	雨水貯留施設等排水の整備 →150507従後の浸透係数が従前より良化するれば不要 屋根雨水は浸透施設にてかん養
規則38条	消防水利の設置 40 t
規則40条	文化財の保護

■秦野市土地の埋立て等の規制に関する条例：秦野市都市部開発指導課	
5条	埋立て等(工事に関わる切土含む)に係る土地の面積が500㎡以上で市長の許可が必要

■秦野市火災予防条例：消防本部予防課	
3条	炉は建築物等から安全と認める距離以上を保つこと ただし建築物等が耐火構造で主要な部分を準不燃材料でつくった場合、又は建築物等が耐火構造以外で、主要な部分を不燃材料でつくった場合はこの限りでない 液体燃料を使用する炉の付属設備の基準 詳しくは条例参照 その他基準、調査中(設備房にチェック)
32条	小出槽990Lが少量危険物に該当

■神奈川県みどりの協定：湘南地域県政総合センター環境部	神奈川県自然環境保全条例22条より、土地の区画形質の変更又は水面の埋立を伴う行為が開発等の区域面積1ha以上で協定を締結
-----------------------------	--

■神奈川県自然環境保全条例：湘南地域県政総合センター環境部	8条 自然環境保全地域、特別地区に含まれない普通地区において、新築する場合、行為に着手する日の30日前までに知事に届出
-------------------------------	---

■その他	
------	--

■条例

■秦野市みどりの条例：秦野市環境産業部環境保全課	
18条	公共施設の緑化推進に努める
■秦野市景観まちづくり条例：秦野市都市部開発指導課	
21条	地域景観拠点の所有者は現状変更する場合30日前までに届出 →141224葛葉川河川区域が地域景観拠点に指定 河川側の景観に留意 ガイドラインに沿った計画を作成の上、協議のこと
51条	景観計画区域内(市全域)で、景観法16条の届出は規則別表による行為
規39条	高さ10m超延1000㎡超の新築増築改築を行う場合
別表	

■ふるさと秦野生活美観計画：秦野市都市部開発指導課	
・生活美観計画の対象区域は市域全域	
・計画地は市街化区域だが、丹沢大山をのぞむ葛葉川沿いの立地特性であるため山並み景観及び水辺景観に配慮	
・景観法16条の届出を要する行為の景観形成基準	

■数多く示されており詳しくは本文参照 代表的なものを下記に示す	
外観	全体として一体感のある外観 形態、色彩、植栽等の調和
屋根	ゆるやかなスカイライン形成 勾配屋根など 屋上設備は山並みや周辺景観と調和した修景を行う
壁面	凹凸や雁行などボリューム感低減 色面の変化、柱配置など分節化
色彩	周辺調和 高彩度、高明度、低明度避ける 色彩基準に適合させる
外構	生垣等の囲障構造 四季を感じさせる樹木 敷地内緑化
夜間	周辺への光の影響に配慮 夜間景観の演出
	住宅地の落ち着いた環境を損ねない
その他	駐車場、ゴミ集積所など設置物は周辺から目立たない配置とする 擁壁 緑豊かな斜面地景観を大切に既存樹木の保全又は代替緑化

■秦野市屋外広告物条例：秦野市都市部建築指導課	
・計画地である工業地域は第3種地域に該当	
基準	広告物表示面積は20㎡以内又は壁面20パーセント以内 建築物から横にはみ出し禁止 表示部分が地上15mを超えるものは色彩基準あり 写真絵画禁止 ネオン、点滅、動光、発光可変式広告禁止

■その他	
------	--

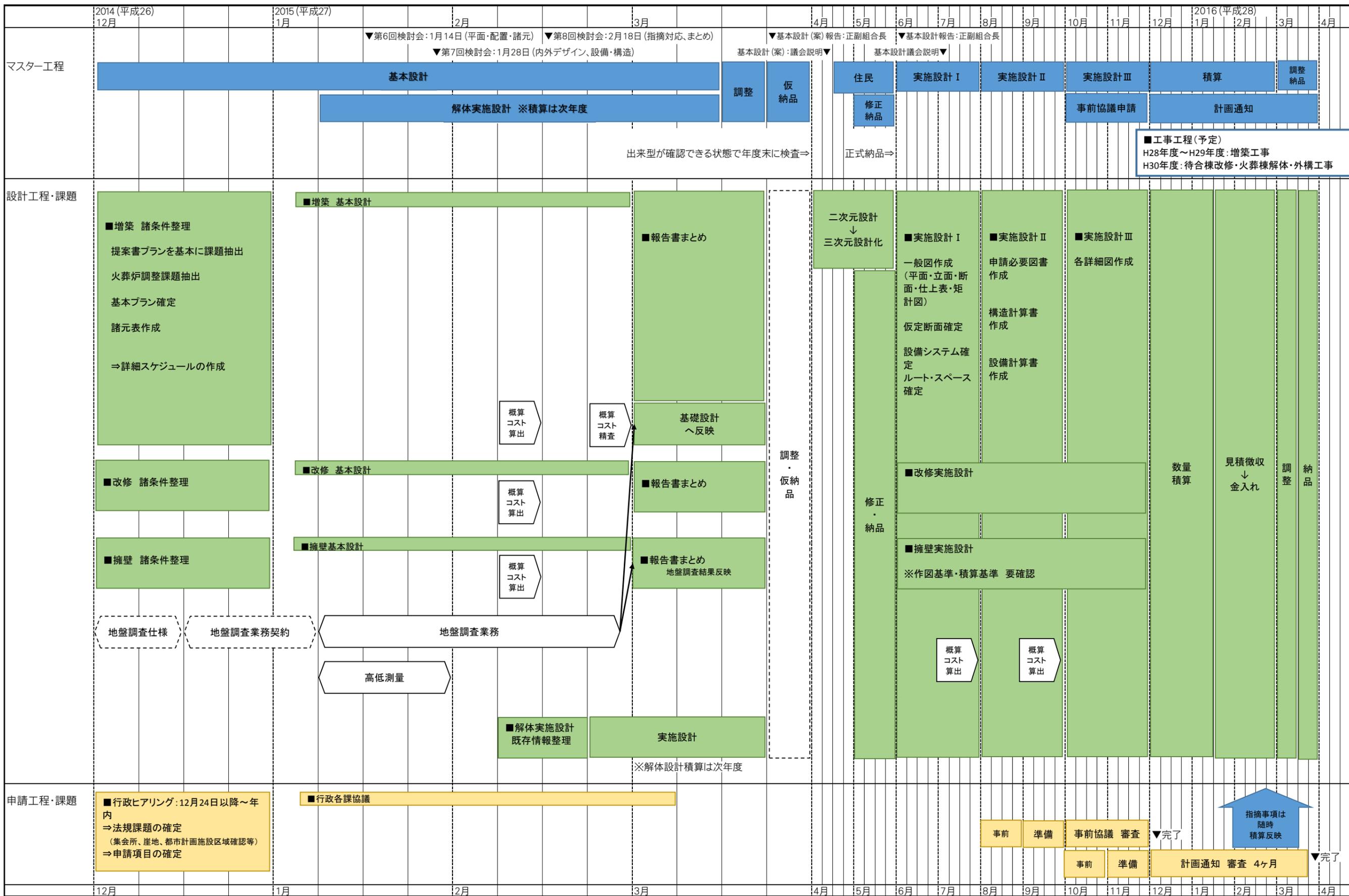
■備考

■協議・確認項目	
■建築基準法	●車寄せは法床面積に算入するか →150217算入する
	●ポーチは法床面積に算入するか →141224算入する
	●バルコニーは法床面積に算入するか →141224バルコニーの出が2m以下であれば軒の出に関係なく算入しない
	●火葬場と待合室、火葬場と車寄せで、異種用途区画は必要か →150330不要
	●車寄せが法床に算入された場合、面積区画は必要か →150330開放性があるため不要
■他条例	○建築協定の確認
	○県自然環境保全条例8条自然環境保全地域に該当していないか確認
	○県墓地等経営の許可等に関する条例で、将来都市計画変更が生じた場合緑地20%に係るが、今回対応すべきかは行政確認必要
■その他	○河川保全区域。待合棟改修、雨水道整備が許可対象か確認要。
	○砂防区域。待合棟改修、雨水道整備が許可対象か確認要。また、いつまでに許可申請が必要か確認要。
	○地目変更の要否確認。里道水路の確認

名称	秦野斎場				
住所	秦野市曾屋1006番地				
概要	建物用途：火葬場 前各項に該当しない事業所(防火対象物-(15)項)				
	延床面積：3,040㎡ / 敷地面積：5,427.30㎡				
	階数：地上2階				
	構造：鉄筋コンクリート造 及び 一部鉄骨造 / 耐火建築物				
	有窓/無窓：無窓階				
消防設備	消防法	判定	秦野市火災予防条例	判定	備考 【回答】
消火器	延面積300㎡以上 地階・無窓階床面積50㎡以上 各用途部分毎に	○	—		屋上キュービクル設置場所に大型消火器設置
屋内消火栓設備	延面積1000㎡以上(耐火・内装制限:3,000㎡) 地階・無窓階又は4階以上の階 床面積200㎡以上(耐火・内装制限:600㎡)	○	—		
特殊消火設備 (不活性ガス消火設備) (ハロゲン化物消火設備) (粉末消火設備)	多量の火気を使用する部分の床面積が200㎡以上	×	—		200㎡毎に区画する ⇒1階・2階のダクト貫通部は区画処理するが、燃焼炉のダクトにダンパーは設置できないため、ダクトプレート厚1.6mm以上とする。【区画仕様は後日指示の可能性あり。】 人体炉:500kw/台・時間×8台
			入力350kw以上の炉にあっては、不燃材料で作った壁、柱、及び天井(屋根)で区画され、かつ、窓及び出入口等に防火戸を設けた室内に設ける。(第3条(19)3)	○	
自動火災報知設備	一般階:延面積1000㎡以上 地階・無窓階又は3階以上:床面積300㎡以上	○	—		
消防機関へ通報する火災報知設備	延面積1000㎡以上	○	—		(令第23条3項) 消防機関へ常時通報することができる電話機にて代替
非常警報設備	M≥50又は地階・無窓階でM≥20で、非常ベル・自動式サイレン又は放送設備のいずれか	○	—		自動火災報知設備を設置
誘導灯設備	地階・無窓階及び11階以上の部分に設置	○	—		高齢者及び身障者対応として音声及び点滅機能を付加
消防用水	敷地面積20000㎡以上 かつ1・2階の合計面積15000㎡以上(耐火)	×	—		
消防水利	—	×	—		既存の40㎡水利はH9年開発許可で設置。今回もこれに準ずること。敷地全体を半径100mで包含できる配置とする。2FLが10m以下なので消防車寄り付きスペースは不要。その他設置指針参照のこと。
連結散水設備	地階の床面積700㎡以上	×	—		
連結送水設備	地階を除く階数≥7のもの	×	—		
非常コンセント設備	地階を除く階数≥11	×	—		
非常電源設備	特定防火対象物で延面積1,000㎡以上の建物は、自家発電設備又は蓄電池設備	×	—		保安負荷のバックアップとして非常用発電機を設置 【屋内消火栓の非常電源は何か?計画後に報告のこと】
避難器具	3階以上の階又は地階 その階の収容人数10人以上 必要個数は収容人数100人ごとに1個	×	—		
その他					
危険物施設として屋外地下オイルタンク(灯油)(1万8千ℓ)有り	危険物の規制に関する政令による(別紙)		—		
炉用屋内灯油タンク(990ℓ)有り	灯油貯蔵990ℓ(<1000ℓ)のため、少量危険物とみなす		板厚2.3mm以上の鋼板		【屋内の判定はタンク容量ではなく、1日当たりの使用量で判定する。1000ℓ以上の場合是一般取り扱い所になるため留意のこと。】
発電機用屋外灯油タンク(950ℓ)有り	危険物の規制に関する政令による(別紙)		—		

◆危険物規制

危険物の規制に関する政令/危険物施設として/貯蔵所/地下タンク貯蔵所		
	地下オイルタンク・灯油 発電機用:126.6L/h×72h=9,115.2 火葬炉用:8,000L ⇒合計:18,000L	
	地下オイルタンク(1万8千ℓ)と建物との離隔距離規制	なし
		(第9条1) ⇒住居、学校、病院、劇場、重要文化財等は近接しない。
	地下オイルタンク設置表示	(第13条-5)地下タンク貯蔵所には、総務省令で定めるところにより、見やすい箇所に地下タンク貯蔵所であることを表示した標識及び防火に関し必要な事項を掲示した掲示板を設けること。
		(危険物の規制に関する規則17条) 標識:幅0.3m以上、長さ0.6m以上の板 標識の色:地を白色、文字を黒色
		(危険物の規制に関する規則18条) 掲示板:幅0.3m以上、長さ0.6m以上の板 危険物の類、品名及び貯蔵最大数量を記載 標識の色:地を白色、文字を黒色
	地下タンク貯蔵所の上を、車両が通過する場合有り。	⇒駐車してはいけない法令はありますか? 【規則は無いが駐車は不可。その旨の明記は自主判断による。】
危険物の規制に関する政令/危険物施設として/取扱所/一般取扱所		
	発電機用 屋外灯油タンク(950ℓ) 灯油=第2石油類 指定数量:1,000L 発電機(500kVA)の1時間あたりの燃料消費量: 126.6L/h 灯油使用量 126.6 L/h × 24 h = 3,038.4L > 1,000L	省令28条の57-4 (1)一般取扱所は、壁、柱、床、はり及び屋根が耐火構造である建築物の屋上に設置すること。 (2)危険物を取り扱う設備(危険物を移送するための配管を除く。)は、屋上に固定すること。 (3)危険物を取り扱う設備(危険物を取り扱うタンク及び危険物を移送するための配管を除く。)は、キュービクル式のものとし、当該設備の周囲に高さ0.15m以上の囲いを設けること。 (4)前号の設備の内部には、危険物を取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設けること。 (5)危険物を取り扱うタンクは、その容量の総計を指定数量未満とすること。 (6)屋外にある危険物を取り扱うタンクの周囲に高さ0.15m以上の第13条の3第2項第1号の規定の例による囲いを設けること。 (7)→告示キュービクル式のため免除。 (8)第3号及び第6号の囲いの内部は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適当な傾斜及び貯留設備を設けること。この場合において、危険物が直接排水溝に流入しないようにするため、貯留設備に油分離装置を設けなければならない。 ※消防との最終協議は未遂。最終協議を経て決定。
秦野市火災予防条例/少量危険物の貯蔵・取扱いとして		
屋内		
	炉用 屋内灯油タンク(990ℓ)の設置室構造 灯油=第2石油類 指定数量:1,000L	第33条の3の2 (1)壁、柱、床及び天井は、不燃材料で造られ、又は覆われたものであること。 (2)窓及び出入り口には、防火戸を設けること。 (3)液状の危険物を貯蔵し、又は取り扱う床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適当な傾斜をつけ、かつ、ためますを設けること。 (4)架台をもうける場合は、架台は不燃材料で堅固に造ること。 (5)危険物を貯蔵し、又は取り扱うため必要な採光、照明及び換気の設備を設けること。 (6)可燃性の上記又は可燃性の微粉が滞留するおそれのある場合は、その蒸気又は微粉を屋外の高所に排出する設備を設けること。



秦野斎場施設整備 発注区分別 増築・改修工事 概算金額

単位：千円

1. 建築工事		
直接工事費		919,000
共通仮設費		33,000
現場管理費		92,000
一般管理費		94,000
消費税相当額		91,000
総計		1,229,000
2. 電気・昇降機設備工事		
直接工事費		313,000
共通仮設費		12,000
現場管理費		41,000
一般管理費		31,000
消費税相当額		32,000
総計		429,000

3. 空調設備工事		
直接工事費		94,000
共通仮設費		4,000
現場管理費		17,000
一般管理費		11,000
消費税相当額		10,000
総計		136,000
4. 衛生設備工事		
直接工事費		53,000
共通仮設費		2,000
現場管理費		11,000
一般管理費		6,000
消費税相当額		6,000
総計		78,000

5. 植栽工事		
直接工事費		10,000
共通仮設費		1,000
現場管理費		2,000
一般管理費		1,000
消費税相当額		1,000
総計		15,000

※類似物件を元に物価上昇補正を行い算出しています。

※消費税は8%として計算しています。

※備品購入費、上水引き込み負担金、東電電柱移設費用は上記に含まれません。

建設工事総計	1,887,000
火葬炉工事	280,000
事業費総計	2,167,000